駒澤大学教育後援会

会報

Newsletter

［特集］「ぜんぱく」
～禅を通じて文化と歴史に触れる、
スティーブ・ジョブズも実践した禅の文化～

サークル紹介　バレーボール同好会・書道部

学部・学科紹介　文学部社会学科

2026

vol.196



カラダスマイルプログラム（食支援プロジェクト）

駒澤大學

駒澤大学教育後援会 会報
Komazawa University Education Support Association Newsletter
vol.196 2026

CONTENTS

◆巻頭挨拶
永井 政之（駒澤大学 総長）……4
大石 將貴／岡崎 敏樹（駒澤大学教育後援会 副会長）……5
特集1 気になる！ 就職活動
［就活体験記］
坂井 勇麻（経済学部 商学科4年）／内藤 彩音（文学部 心理学科4年）……6〜7
キャリアセンターからのお知らせ……8
◆駒澤会・同窓会について……9
特集2 サークル紹介
『バレーボール同好会』……10〜11
秋山 比呂（会長）／越智 葉月（副会長）／中村 渚（部員）
［取材を終えて］教育後援会文化部取材班
『書道部』……12〜13
遠藤 実央（幹事長）／笹川 瑚青（副幹事長）／岩崎 茉侑（副幹事長）
［取材を終えて］教育後援会文化部取材班
特集3 国際センターだより……14〜15
特集4 「ぜんぱく」〜禅を通じて文化と歴史に触れる、スティーブ・ジョブズも実践した禅の文化〜……16〜19
特集5 学部・学科紹介
『文学部・社会学科』
［学科主任挨拶］濱田 国佑（社会学科主任・教授）……20
［各専攻紹介］……21
土田 久美子（社会学専攻主任・准教授）
長尾 譲治（社会福祉学専攻主任・准教授）
［駒大教員探訪］……22〜23
深澤 弘樹（社会学専攻・教授）
延原 稚枝（社会福祉学専攻・講師）

駒澤大学教育後援会「会報」第195号（令和8年7月19日発行）
15ページ以下の記事に誤りがありました。

学長奨励賞
個人の部
研究・文化・体育活動等の分野で目覚ましい活躍をし、
大学の名誉高揚に著しく貢献した者又は学生団体
▶日本経済新聞「未来面」にアイデア掲載

誤） ■本怜奈（経営学部1）

正） 槇本怜奈（経営学部1）

ご本人様、関係者の皆様ならびに読者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

駒澤大学教育後援会とは

教育後援会は、駒澤大学・大学院に在学する学生のご父母（保証人）を会員として構成されています。

大学と家庭との連絡を図り、教育的効果の向上に資するとともに、会員相互の親睦と福祉に寄与することを目的としております。

本文中の表記について
GMS学部GM学科：
グローバル・メディア・スタディーズ学部グローバル・メディア学科

［このゼミに注目！］……24〜25
李　妍淙（社会学専攻・教授）
鬼塚　香（社会福祉学専攻・准教授）
［学生たちの声］
二宮　颯太／上　花楓／秋山　咲希／
石川　未怜／鈴木　文菜／望月　真希……26〜27
特別企画 **第29回　地方で活躍する駒大卒業生の皆さん**……28〜29
増田　啓介（経営学部卒業）
特集6　令和8年度　教育懇談会を終えて
教育懇談会を終えて／オンライン個別相談……30〜31
参加者の声……32〜33
参加者アンケート結果……34〜35
特集7　夏季委員研修会に参加して……36〜37
◆**大学だより**
［教務部より］
試験および成績評価について……38
［学生支援センターより］
インスタグラム「駒澤の今日」更新中……38
奨学金について／卒業アルバムについて……39
駒澤大学カラダスマイルプログラム……40〜41
◆**教育後援会だより**
新年賀詞交歓会のお知らせ／申込方法……42〜43
◆**卒業式について／父母寄稿募集／募金事務室のお知らせ／編集後記**……44
◆**会員アンケート用紙**……45
◆**第103回　東京箱根間往復大学駅伝競走　応援についてのお願い／第22回　應援指導部ブルーペガサス　天馬祭のご案内**……47



表紙の一枚

「カラダスマイルプログラム（食支援プロジェクト）」

企業・団体などから提供された元気に大学生活を送れる食料品を中心に、学生に無償配付する『食支援プロジェクト9』が駒沢キャンパス記念講堂にて7/15～7/17まで開催されました。この企画は、教育後援会の教育施設等充実助成金の支援事業の一環として実施しております。



学校法人駒澤大学
総　長
永井　政之

「人間」であることを忘れない学びのために

「駒澤大学には何人の学生がいるの?」「およそ1万4千人強でしょうか」「そんなにいるんだ!」よくあるやりとりです。知られているようで案外知られていない数字かもしれません。学生の数はおよそ教育後援会の会員の皆さまの数と言えましょう。

日本全国には、６００を超える私立大学があります。少子化の趨勢の中で、それらの大学の運営がすべて順風満帆とは言えず、財務省や一部の政党はそのうちの4割ほどは近い将来に統廃合することを提言していると報道されています。

7学部17学科・法科大学院に、右に見たほどの学生を擁し、規模の大きな大学と位置づけられ、都内に位置する本学は、一見、安定した経営のもと、何とか現状維持でこの荒波を乗り切れるのではないかとの楽観的観測がある一方、「本当に大丈夫なのか」という危惧の念が頭をよぎることなしとしません。大学を取り巻く状況、ご子女の学びの様子などについては、全国24会場での「教育懇談会」においてご説明いたしましたが、あらゆる場面において、よりよい将来のための工夫が求められているのは自明です。

ここで注目すべきはやはり「これだけやっていればいい」という狭い意味での専門性ではなく、「文理融合」という言葉に象徴される「複眼的な視点」でしょう。文系、理系それぞれに特色を持つ大学の合併のあったことは耳目に新しいことです。さまざまな学部、時には大学のちがいを乗りこえ、お互いの学問研究や教育において、今まで以上に相互の連携を深め共生の道を歩むことが求められていると思います。

今や「生成ＡＩ」の存在なくして、研究や教育、そして現実の社会の動向を考えることはできません。Z世代未満のお子さん達にとって、ＰＣがオモチャですし、日進月歩のその発展は、かのアシモフが提唱した「ロボット3原則」をいとも簡単に破ってしまいました。ドローン攻撃に象徴されるように、国同士の争いも、人間ではなくＡＩが主となりました。ＡＩ主導の戦争は、互いに「核使用」という結論に落ち着くとの予測すらあります。

人間は「火」の使用にはじまり、常に便利さを希求することで歴史を紡いできました。しかし現状を鑑みるとき、未来が必ずバラ色なのかどうか。科学が進んだだけ人間性が劣化してしまってはいないかという危惧の念を拭いきれません。

そんな反省が求められる現代。便利さの追求もさることながら、「人間だからできる」ことを見失わない。そもそも「人間とは」という原点に返っての生き方が、「両刃の剣」となったＡＩに主導権を奪われない最大の方策だと考えます。そのために「互いのいのちを大切に」、「煩悩（欲望）に引きずられない生き方を大切に」と説く「仏教」の出番だと信じます。

皆さまのご子女は、教育後援会をはじめとする皆さまのさまざまな手厚いご援助のもと、専門分野での学びに勤しんでいます。同時に本学が固有する「仏教・禅の教え」が説く「人間的な生き方」を、「仏教と人間」の授業などを通し陰に陽に学びます。本学での青春が長い人生をより豊かなものにしてくれることを、私どもは信じて疑いませんし、教育後援会の皆さまのさらなるご理解とご援助を切にお願い申し上げます。



駒澤大学
教育後援会 副会長
大石 將貴

未来へつながる好循環をめざして

この度、駒澤大学教育後援会副会長を拝命いたしました大石將貴と申します。まだまだ至らないところもありますが、教育後援会の活動を支えていければと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

私が本会に入会したのは、既に後援会で活動されていた会社の先輩からの紹介がきっかけでした。文化部の一員として活動する中で、大学と後援会が学生をそっと後押しし、学びや挑戦を支えるため、本当に細やかな取り組みを重ねていることを知りました。駒澤大学には、学生を見守り、必要なときに寄り添ってくれる温かさがあると強く感じています。

さらに、後援会で活動する中で気づいたのは、学生だけでなく、親である私たち自身にも仲間ができ、共に成長できるということでした。活動を通じて自然とつながりが生まれ、情報交換をしたり励まし合ったりしながら、親も大学生活を楽しめる場になっていると感じています。

こうした温かいつながりをさらに広げ、より参加しやすく、心地よく関われるような活動づくりを進めていきたいと考えています。そして、大学との連携を深めることで、学生・大学・後援会が互いに支え合い、好循環を生み出していけるよう力を尽くしてまいります。

これからもみなさまのお力をお借りしながら、学生たちの未来がより明るく輝くよう、一緒に歩んでいければ幸いです。



駒澤大学
教育後援会 副会長
岡崎 敏樹

学びとつながりが育む絆

このたび、駒澤大学教育後援会副会長を務めさせていただくことになりました岡崎敏樹と申します。歴史ある教育後援会の副会長という大役を仰せつかり、その責任の重さを感じております。皆様のお力添えをいただきながら、誠実に務めてまいります。

私自身、子どもが駒澤大学へ入学するまで、本学が仏教系の大学であることを知りませんでした。入学式で記念講堂に仏像が現れたときは驚きましたが、教育後援会の活動を通じて仏教の教えや坐禅などに触れ、保護者である私自身も多くの学びをいただいています。

例えば、皆様はお盆の正式名称をご存知でしょうか。盂蘭盆会（うらぼんえ）と言います。私は何となく「お盆はお墓参りをする行事」という認識でしたが、その由来や意味を学び、理解を深めることができました。

また、教育後援会の魅力は、地域を超えた人とのつながりにあると感じています。今年7月の熊本地震の際には、委員同士で安否や現地状況の情報共有が行われ、大学の先生からのお見舞いの言葉も届けられました。私自身、宮城県で東日本大震災を経験しておりますが、そのような時に寄せられる気遣いの言葉が被災者の大きな励みになることを実感しています。

教育後援会は、学生を支えるだけでなく、保護者と大学、人と人をつなぐ架け橋でもあります。会員の皆様の声に耳を傾けながら、学生にとっても保護者にとっても魅力ある大学づくりに貢献してまいります。

気になる！就職活動

先輩からのアドバイス 就活体験記

どのように進めていけばいいのか…と
悩むことも多い就職活動。
今回も２人の経験者の実体験をお伝えします。



経済学部 商学科 ４年
坂井 勇麻さん

内定先 アース製薬株式会社

MESSAGE

「やりたいことがわからない」と、私はずっと迷っていました。しかし日々の生活や就職活動を通じて多くの人と話す中で、少しずつ進みたい方向が見えてきました。正解がないからこそ落ち込むこともありますが、新たな出会いは視野を広げてくれます。せっかくなら、その過程も“楽しんだもの勝ち”です。

何十年も続くキャリアを最初から決めるのは、誰にとっても簡単ではありません。だからこそ焦らず、まずは様々な業界や企業に触れて、「少し面白そう」「気になる」と思えるところに挑戦してみてください。その積み重ねが、自分らしさを見つけるきっかけになると思います。

落ち込む日があっても、一人で抱え込む必要はありません。周りの大人に遠慮せず頼りながら、自分を信じて一歩踏み出してみてください。きっと納得のいく道が開けていきます。

the PROCESS leading up to a JOB OFFER

大学3年次

4月　学校の就活ガイダンスに参加し、就活サイトに登録する。

6月　学内の業界研究イベントの「jobサファリ」に参加する。

10月　学内の業界研究イベントの「jobサファリ」に参加する。

12月　本格的に就職活動を開始
学内のＵＩターンイベントに参加する。
テストセンター・面接を初めて経験する。
ＳＰＩの勉強を開始する。
アース製薬の対面イベントに参加する。

1月　広島県の就職支援の方と面談をする。
合同説明会に参加する。

2月　面談を重ねながら面接とＥＳを書いていく。
大型合同説明会に参加する。
広島県主催のワークショップに参加する。
1dayインターンシップに参加する。

3月　学内の合同説明会に参加する。
地元の企業の面接で何度も東京・広島を往復する。
様々な業界の面接を受けてみる。
動画選考のための動画をたくさん撮る。

大学4年次

4月　面接が多く週に２～３回あった。

5月　中旬から下旬にかけて最終面接も増えていった。
並行して県警の採用試験を受ける。

6月　内々定をいただき就職活動を終了。





文学部 心理学科 4年

内藤 彩音さん

内定先 株式会社ロッテ

the PROCESS leading up to a JOB OFFER

大学3年次

5月　もともと食に興味があったため、知名度のある食品メーカーのマイページ登録を徐々にし始めながら、マイナビ主催の合同企業説明会にも参加し、さまざまな業界や企業について知る。

6月　夏のインターンシップへの応募に向けて本格的に自己分析を始め、ESを作成する。

7月　マイナビ主催の合同企業説明会に再び参加する。興味を持った企業のインターンシップへ、練習も兼ねてESを提出する。

8月　夏休みに玉手箱の勉強を始め、対策本（赤本）を2周する。その後、SPIテストセンターの対策にも取り組む。

9月　複数企業の1day Webインターンシップに参加する。SPIテストセンターの赤本と青本にも取り組み、それぞれ2周する。

10月　引き続き1day Webインターンシップに参加する。ESを改善して秋のインターンシップに応募するが選考で苦戦したため、改めて自己分析やESの内容を見直す。

11月　YouTubeを参考にしたり、周囲の先輩からアドバイスをもらったりしながら、ESの作り方や自分の魅力の伝え方を改善する。一部企業の面接にも参加し、選考経験を積む。

12月　さまざまな業界・企業の説明会に多数参加し、企業研究を進める。本選考が忙しくなる前に、アルバイトや遊び、旅行とも両立させ、気分転換を大切にする。

1月　「ものづくり」という軸をもとに、食品メーカーだけでなく、暮らしや住まいに関わる業界にも範囲を広げる。説明会への参加を続けながら、アルバイトや遊びとも両立させ、「食」と「暮らし・住まい」の二軸で企業選びを進める。

2月　早期選考を中心に面接の予定が増え、AIケース面接などさまざまな形式の選考を経験する。改善を重ね、本選考が始まるまでにガクチカと自己PRの型を完成させる。

3月　食品メーカーを中心に、他業界も含めて本選考が一斉に始まる。多数の企業へESを提出し、Webテスト、面接、GDなどを並行して進める。ほぼ毎日就職活動の予定が入り、最も忙しい時期となる。

大学4年次

4月　3月に応募した企業の面接やGD、最終選考が集中する。暮らし・住まいに関わる企業3社と食品メーカー1社から内定を獲得する。3月に次いで忙しい時期となる。

5月　内定先を比較する中で、以前から夢見ていた食品メーカーへ進みたいという思いを再確認する。暮らし・住まいに関わる企業の内定をすべて辞退するなど、選考中の企業と内定先を合わせて8社辞退し、食品メーカー6社の選考に絞る。

6月　第一志望の株式会社ロッテから内定を獲得する。残っていた内定先と選考中の企業をすべて辞退し、就職活動を終了する。



MESSAGE

就職活動で大切なのは、準備と自分らしさです。ESやガクチカを仕上げ、深掘りにも答えられるよう、経験と考えを整理してください。人気の食品メーカーでも、土台を作ればESを通過できた企業は多くありました。面接は本当に慣れです。初めは緊張して落ち込みましたが、回数を重ねると、自分の考えを話せることに楽しさも感じました。その上で差がつくのは熱意です。企業研究を重ね、志望動機と経験や将来のビジョンを結びつければ、「そこまで調べたのか」と知識の深さを熱意として受け取ってもらえます。最後は「この人と一緒に働きたい」と思ってもらえるかです。ぜひ、自分を取り繕わず、会話を楽しみ、自分の言葉で思いを伝えてください。

ES、ガクチカなど、就職活動用語はぜひお子様へ聞いてみてください！



気になる！ 就職活動　キャリアセンターからのお知らせ



2028年卒生の就活も本格化！

2027 年卒（学部４年生・修士２年生）の就職活動も続いていますが、
いよいよ 2028 年卒（学部３年生・修士１年生）の就職活動も本格化しています。
そこで今回は 2028 年卒に対する就職支援について、ご父母（保護者）の皆様へご紹介いたします（一部抜粋）。
なお、学生には、駒キャリ・メール・学内掲示等で詳細を告知しています。

2028 年卒生（学部３年生・修士１年生）対象 就職・キャリア支援

（主なプログラム）

11 月以降 随時	**卒業生相談会**	さまざまな業界から本学の OB･OG を招いて、相談会を実施します。
	内定者によるアドバイス会	座談会形式で、４年生内定者が就職活動を控えた学生の質問に答えます。
	自己分析	過去の経験から自分の強みや弱みを整理・理解し、初対面の人にもわかりやすく伝えられるようになることを目指します。
	業界・職種研究	業界研究・職種研究を理解するために必要な考え方・調べ方を学びます。志望動機の作成につなげていきます。
	ES（エントリーシート）対策	企業等への応募の際に必要な “自己 PR”“学生時代に打ち込んだこと”“志望動機”を完成させます。
	グループディスカッション対策	突然の選考にも焦らないように、グループディスカッションの意図を理解し、ワークを通じて体験します。
	面接対策	面接官の視点等を解説し、ワークを通じて面接を体験します。
11 月下旬	**UI ターン就職フェア**	学生の地方への UI ターンを促進するため、若手社会人や企業との交流を通じて現地でのキャリアに関心を深めてもらうイベントです。
２月頃 （予定）	**学内合同説明会**	優良企業を多数お招きする学内合同説明会を開催します。

インターンシップの動向

2027 年卒業生のインターンシップ等への参加状況に関する調査結果では、2025 年９月時点で参加率 74.2%、平均参加社数 6.30 社でした。初めて応募した時期は 2025 年６月、初めて参加した時期は８月の割合が最も高くなりました。一方で、不参加理由では「選考に通過しなかったため」が 46.3%で最も高くなりました。

このように、３年生の夏季インターンシップ等への参加を目指して就職活動に取り組む学生が多いことが分かります。希望企業のプログラムに参加できるように、キャリアセンターを活用して応募書類の添削指導を受けて準備を整えましょう。

出典：株式会社インディードリクルートパートナーズ「インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムへの参加状況（９月時点）」
https://www.indeedrecruit-partners.co.jp/wp-content/uploads/2025/12/20251203_Hb7gNi_01.pdf

第１回 学内合同説明会のご案内

2027年２月頃（予定）に第１回学内合同説明会を開催いたします！

招聘企業数は 100 社以上を予定しています。

１日に複数社の説明を受けることができます。皆様もご存じの企業や、業界研究をしているとよく名前の出る優良企業が多数参加します。

駒大生の採用意欲が高い企業担当者と近い距離でじっくり話ができる貴重な機会です。ぜひご子女にお勧めください（今後の社会情勢により予定変更となる場合もあります）。

駒澤会・同窓会について

駒澤会

卒業後も大学と縁を取り持つ駒澤会

皆様は、駒澤大学を支える三つの団体をご存じでしょうか？　駒澤大学には、教育後援会、駒澤会、同窓会と学生たちや大学を支える三つの団体があります。

駒澤会は、駒澤大学卒業生の父母の会で、大学の発展を願い、皆様からの駒澤会入会金を基金として、在校生に『ゆめ基金』（駒澤会奨学基金）の給付を行っています。今年も7月14日に37名の各学部の成績優秀者に対して、給付させていただきました。

また、総会をはじめ、会員の皆様と親睦を図るため、賀詞交歓会、研修会、親睦会等も行っております。今年6月の初夏の親睦会では、曹洞宗大本山總持寺を訪れ参禅研修に参加し、その後サザンオールスターズの原由子さんのご実家でもある老舗の天ぷら懐石『天吉』にて旬の味覚を楽しみながら、親睦を深めました。また、今年度より年1回の発行の「駒澤会だより」において、各種行事の報告もさせていただいています。

ご子女が学ばれた駒澤大学とのご縁を、卒業後も大切に繋いでまいりたいと存じます。皆様のご入会を心よりお待ちしております。





同窓会

同窓会がつなぐ現在と未来

同窓会は47都道府県と台湾に計59の支部を擁し、総会の運営や母校・駒澤大学への支援など、多岐にわたり活動しております。

在校生への支援の一環として「同窓会奨学金（学業奨励型）」を設けており、令和8年度は6月に1年生70名へ給付いたしました。

また、学業やスポーツ等で顕著な成果を修めた学生・団体を称える「同窓会表彰」を実施しており、毎年3月の卒業式日に授与式を行っております。司法試験や公認会計士等の難関資格取得者、学会で成果を挙げた学生のほか、スポーツ面では卓球部、ボクシング部、陸上競技部、空手道部などの団体・個人へ、日頃の努力を称え表彰金を贈呈しております。

さらに、教育後援会様のお声がけをきっかけに、教育後援会と同窓会の支部同士で、昨年度は広島県にて「全国男子駅伝」を応援し、今年度は2月に静岡県にて「富士宮駅伝」の合同応援を予定しております。貴重な機会を与えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

本同窓会が皆様にとって身近な存在となり、人生をより豊かにする「縁」となることを心より願っております。





サークル紹介

CIRCLE Pick Up!





バレーボール同好会KVC

創立年 1976年
部員数 270人

駒澤大学バレーボール同好会（KVC）では2026年度は1～4年生合わせて270人が在籍しています。世田谷区内の体育館を借りて週1回の頻度、1回30人ほどで活動しています。そこでは、男女や経験未経験の壁なく全員が楽しめるように活動しています。日々の活動に加えて、数か月に1回サークルだけの大会に出場しています。そこでは男女アベック優勝を何度も達成しています。
サークルメンバーのバレーボール経験には非常に幅があり、まったくの未経験や、中学の部活だけという人もいれば小学生から始めて高校では全国大会に出場したというメンバーも多く在籍しています。すべてのメンバーが楽しめるように日々の活動ではネットの高さやチーム編成を工夫したり、経験者だけの試合や女子だけの試合を設けたりしています。長期休みには2泊3日の合宿を行い、バレーボールだけでない部員同士の交流を活発にしています。

Voices of Members 部員の声

学年を超えて出会える最高の仲間

会長
文学部　歴史学科　外国史学専攻3年
秋山 比呂

KVCはバレーボール経験の有無はまったく関係なく楽しく活動しています。日々の活動だけではなくKVCの活動は長期休みの合宿や、オータムフェスティバルでの出店を通して部員同士交流を深めています。また活動だけではなく、学校での休み時間に一緒に過ごしたり、学外にて一緒に遊びにいったりすることもあります。なんといってもKVCは全員が仲良くなれることが特長だと思います。学内外での交流がサークル活動をさらに活発にさせています。もう一つの特長は学年の壁が全然ないことです。先輩後輩とても仲が良いです。だれが入部しても楽しめる自信が3年生の運営陣にはあります！　バレーボールを通してかけがえのない時間をたくさんの友達と過ごせるのがKVCだと思います。

かけがえのない大学生活へ

副会長
経済学部　商学科3年
越智 葉月

KVCの魅力は、性別や学年、経験者・未経験者を問わず、誰とでも仲良くなれるところです。所属人数が多いため、さまざまな学部の仲間と出会い、プライベートでも遊びに行くほどの関係を築くことができます。経験者は大会で本格的にバレーボールを楽しみ、未経験者も練習を重ねるごとに成長していきます。私自身もKVCでかけがえのない仲間と出会い、充実した大学生活を送ることができています。きっと誰もがバレーボールを好きになれるサークルです！

バレーから広がるあたらしい世界

部員
経済学部　商学科2年
中村 渚

私の所属するKVCでは、バレーを通してさまざまな人と出会い、自分の世界を広げられます。普段の大学生活だけでは関わることのなかった人たちと一緒に活動することで、自分とは違う考え方や価値観に触れることができます。また、部活動とは違うサークルという環境で、バレーを楽しみながら仲間と交流し、イベントなどを通して大学生活の思い出を作ることもできます。KVCでの活動を通して、新しい発見や経験ができることが大きな魅力だと感じています。





取材を終えて

大蔵第二運動場の体育館に入ると、まずはスパイク練習からスタートしました。メンバーたちはトスに合わせて力強くスパイクを打ち込み、一球一球フォームを確認しながら汗を流していました。その後は男女混合のチームをつくり、試合形式の練習を実施。コートではラリーが続き、ナイスプレーが飛び出すたびに歓声や拍手が上がっていました。ミスをしても互いに声を掛け合い、笑顔で励まし合うなど、体育館は終始和気あいあいとした雰囲気に包まれていました。一方で、プレーが始まると真剣な表情に切り替わり、一球一球に集中してプレーする姿が印象的でした。楽しみながらも真剣に競技と向き合う様子が伝わる練習でした。

サークル紹介

CIRCLE Pick Up!











書道部

創立年 1955 年
部員数 38 人

こんにちは！書道部です。
書道部は 38 人で日々楽しく活動しております。週 2 回（火・金）の 16 時 20 分から 19 時 30 分まで活動しており、遅刻や早退、欠席 OK なので予定に合わせて自由に参加することができます！
通常活動では、主に冬に行われる書作展に向けて、先生のご指導のもと自分の書きたい作品を日々練習しています。他にも留学生交流会や書道パフォーマンス、合宿などのイベントが盛りだくさんです！
やるときは真剣に、普段は和気あいあい。温かくて居心地のいい部活です。大学から始めた部員もたくさんいます。「やってみたい」の気持ちがあれば大歓迎！経験や上手さは関係ありません。用具は部で用意しているので安心です◎
この記事を見て書道部に興味を持ってくださったら嬉しいです。書道を通して、一緒に素敵な思い出をつくりませんか？お待ちしています！

Voices of Members 部員の声

上手い下手より自分らしく！

幹事長
文学部　国文学科３年
遠藤 実央

書道部ではそれぞれの好きを追求してもらえるように、書く文字もみんなバラバラです。そのため同じ紙の上に並んだ作品でも、個性が浮かび上がってきます。部員同士で作品を見せ合うと、線質や掠れなど、評価の軸が上手い・下手ではなく、「その人らしさ」に向かうのもこの部活ならではかなと思います！
書道には正解がありません。温かい線、凛々しい線、ユニークな線…どの作品にもそれぞれに魅力があります。そこが書道の一番の魅力で一番難しいところだと感じています。

仲間と深める、書の表現と日本文化

副幹事長
文学部　英米文学科３年
笹川 瑚青

私は今まで習い事として書道を続けてきました。そこでは書道を趣味とする同年代の人はどんな文字を書くのか、というのはなかなか見る機会がなかったのを覚えています。しかし大学に入り書道部に所属することで、表現の幅が広がったように感じます。文字の形や書体に意識を向けることで、日本文化の奥深さを感じられます。また、書作展という一つの目標に向かって部員同士で活動していけることも、部活動だからこそ味わえる感覚で、とても魅力的だと感じています。

指導と刺激で広がる表現力

副幹事長
仏教学部２年
岩崎 茉侑

私は書道未経験で入部しましたが、先輩方や講師の方々が一から丁寧に教えてくださったので、安心して始めることができました。様々な書の古典に触れる中で、自分の好きな作風を見つけ、ただ臨書するだけでなく、自分なりの表現を加える楽しさを知りました。また、先輩後輩関係なく気軽にアドバイスをし合い、お互いに刺激を受けながら成長できます。未経験でも挑戦でき、自分の成長を実感できることが書道部の大きな魅力です。

取材を終えて

澄んだ墨の微かな匂いと畳の青い香りが混じり合う和室。窓越しには初夏の光を受けた緑豊かな庭園が広がる深沢キャンパス日本館で行われました。

現在部員は 38 名（活動は火曜日＆金曜日）です。

書道は B4 判に近い半紙に書くイメージでしたが、実際は細長い紙に書き、筆先だけが小さく動いています。腕に自信が持てるようになるとこちらに書きたくなるようです。

挨拶後、４年生から課題の提出、講師の添削という流れです。そろそろ取材終了の時間なので講師の方にも入ってもらい質疑応答になりました。講師の方は駒大 OB なので質疑応答に昔話を交えながら和やかな笑いもあり御開きとなりました。

書道部の皆様には貴重な時間を頂き有り難うございました。

平日にも関わらず参加頂いた文化部の皆様にもお礼申し上げます。











国際センターの支援体制



KOMAZAWA_INTL

◀国際センター
公式Instagram

The team at the International Center of Komazawa University works tirelessly to foster the university's global partnerships and to develop opportunities to deepen cultural exchange and global mobility through study and research activities abroad. It is a great privilege to have joined the team as the Director of the International Center since April 2025. The International Center was established in May, 1988 and currently has 47 partnerships worldwide. An important aspect of the International Center's activity is encouraging students to consider their role as global citizens and to develop their skills as part of the future workforce. The demand for international education is rising, and it is essential to understand shifting mobility patterns and emerging digital platforms. In the first semester Komazawa University accepted a total of 8 exchange students from Taiwan, Korea, Spain and Germany. The university also sent 2 exchange students to Korea. In the second semester, a total of 13 exchange students came to study at Komazawa University from Taiwan, Korea, the U.K., France, Germany and Australia. In addition, the university sent a total of 20 exchange students to China, Taiwan, the U.S.A., the U.K., France, Spain, Germany and Poland.

The International Center regularly holds study abroad consultations and fairs, providing information and support to students. Furthermore, since April of last year, the Global Lounge named "Komazawa International Students' Hub" or "KISH" has been established, with Global Salons being held each month, providing opportunities for interaction between international students and Komazawa University students.



国際センター 所長
モート, セーラ
SARAH MOATE

05 語学支援奨学金

今年5月より、語学学習を促進することを目的として「語学支援奨学金」制度を開始しました。大学が指定する語学試験の受験料の一部または全額を実費で補助します（上限15,000円）。対象となる主な語学試験は、TOEIC（L＆R）、実用英語技能検定、IELTS、TOEFL iBT®、HSK、TOPIKなどです。グローバルな視点を得るため、失敗を恐れずに挑戦に踏み出す学生をサポートします。

学内での国際交流

06 グローバルサロン

毎月、受入れ留学生に日本語、英語、母国語で自国の文化を話してもらい、本学学生と交流を深めていく「グローバルサロン」を開催しています。お昼休みに集まった学生たちは、お互いの国の観光地やエンタメなどを紹介し合って、毎回盛り上がっています。



07 来日プログラム「KOMSTUDY」

毎年、本学協定校から留学生が来日し、駒澤大学の在学生との交流を通して日本語や日本文化を学ぶ、短期の来日プログラム「KOMSTUDY（コムスタディ）」を実施しています。今年度はこれまでの3週間コースに加え、4週間コースを新しく開設しました。6月15日から7月11日まで行われた「KOMSTUDY 2026」には、5つの国・地域の計5大学から20人の留学生が参加しました。期間中には延べ120人以上の学生ボランティアが留学生のサポートを行いました。



08 グローバルラウンジ「KISH」

駒澤大学の国際交流の拠点として、2025年4月にグローバルラウンジ「KISH」を開設しました。国際交流に興味のあるすべての学生に開かれたスペースとして利用することができ、グローバルサロン等各種イベントも開催しています。

場所 **駒沢キャンパス 3号館3階3-307教場横**

01 語学セミナー

2026年度は夏季短期語学セミナーとして、ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）に25人、カリフォルニア大学アーバイン校（アメリカ）に21人、淡江大学（台湾）に14人、オックスフォード大学ハートフォードカレッジ（イギリス）に13人、マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク（ドイツ）に2人、リヨン・カトリック大学（フランス）に2人、計77人の学生を派遣しました。

参加者はホームステイまたは大学寮に宿泊しながら、語学プログラムへの参加、国際交流、異文化体験を通して、充実した夏休みを過ごしました。

また、春季短期語学セミナーとして、アルカラ大学（スペイン）、グリフィス大学（オーストラリア）への学生の派遣を予定しています。また、今年度はカルガリー大学（カナダ）のコースも新規開設予定です。

なお、語学セミナーを修了すると、希望者は手続きの上、卒業に必要な単位（外国語選択科目）として認定されます。

02 交換・認定校への留学

本学協定校への交換留学および認定校留学の派遣期間中には、本学の授業料を80％減免し、少しでも留学しやすい環境となるよう便宜を図っています。さらに交換留学生には本学独自の学習資金の支給も行っています。

本学では現在、世界各地に47の協定校を有しており、今年度は4月には2人の交換留学生を、9月には20人の交換留学生を各国の協定校に派遣しています。また、4月には1人、9月には3人を認定校留学生として派遣しました。

なお、2027年度9月派遣交換留学の募集要項を国際センターHPで公開しています。出願締切は2026年12月上旬ですので、派遣の条件等を確認し、応募の準備を進めてください。

03 留学相談室

国際センターに併設する留学相談室では、多種多様な留学パターンの紹介のほか、必要な語学力や勉強方法、留学手続きの方法など、さまざまな疑問や相談に留学経験が豊富なSAF Japan※のスタッフが応じています。また「学生留学アドバイザー」として、留学経験のある本学学生が実体験などを踏まえ、相談者の知りたい情報をお届けできるよう、対応しています。

※SAF（Study Abroad Foundation）は、2000年にアメリカ・インディアナ州の「認可非営利教育機関」として設立され、日本をはじめとするアジアの大学生の「単位認定留学」のサポートを行っている留学支援団体

04 グローバルフェア



留学と国際交流に関する個別相談およびテーマ別講演に特化した「留学フェア」を毎年9月に開催しています。今年度は、留学だけでなく多様な海外チャレンジに関する情報提供の場であることをイメージしやすいように「グローバルフェア」に名称を変え、9月30日、10月1日～2日の3日間、3号館2階ウィステリアにてお昼休みを中心とした時間帯に開催しました。ワーキングホリデーや海外インターンシップ、国際ボランティアなどの関連団体による個別ブースでの相談会のほか、留学経験のある在学生によるパネルディスカッションや、活躍する同窓生やキャリア関連企業を講師に迎えた「留学とキャリア」についての講演会などを実施しました。

ぜんぱく

～禅を通じて文化と歴史に触れる、スティーブ・ジョブズも実践した禅の文化～

「ぜんぱく」こと禅文化歴史博物館は、日本でも数少ない、禅の文化と歴史を紹介する博物館です。開校120周年記念事業の一環として、平成14（2002）年6月1日に開館しました。

本学の特色である禅・仏教の文化や歴史を身近に感じられる施設として一般公開されており、学内のみならず、地域社会の皆さま、さらには、広く世界へ向けて禅の文化を発信する基地になっています。

館内は2階建てで、禅宗の歴史を物語る貴重な資料が数多く展示されており、その収蔵品や展示内容は学術的にも高い評価を受けています。また、建物（「駒澤大学旧図書館（禅文化歴史博物館・耕雲館）」）自体が国の「登録有形文化財（建造物）」に登録されており、設計者・菅原榮蔵（1892－1967）によるライト風建築の特徴が随所に見られます。なかでも、吹き抜け天井を彩る美しいステンドグラスと堅牢な屏風上の外壁（セブンイレブンに面した側）は、見どころの一つです。

独創的なこの空間はまるでコンパクトな禅のテーマパークのようです。

今回、関係者の皆さんに、「禅」「文化」「歴史」について、また博物館の魅力について、お話を伺いましたのでご紹介します。

禅文化歴史博物館

博物館HP



北門の通行可能時間について

8:00～14:00（入構のみ）
14:00～19:00（退構のみ）

AED…AED　…授乳室
…多目的トイレ　…オストメイト対応トイレ

駒澤大学 -VARIAN 放射線治療人材教育センター…種月館（2階・地下1階）

※4号館と禅研究館を除き、各施設にはエレベーターを設置しています。

駒澤大学 HP・禅文化歴史博物館 HP より

小川館長・杉山課長・塚田学芸員・佐藤学芸員との一問一答

Q1　愛称はありますか？

「禅博（ぜんぱく）」の愛称で、皆さまに親しんでいただいております。

Q2　美術に関心のある方も多いと思います。絵画展示を拡充して「歴史美術博物館」とするようなアイデアはありますか？

当館が「禅」を主題とする博物館であることは今後も変わりませんが、「禅文化」と称されるものには、美術的な価値をもった作品も多く含まれています。現在（2026年度前期）、1F展示室で禅画の展示を行っておりますが、これなどは、美術に関心のある方にも興味をもって見ていただけると思います。

しかし、禅僧の書画は、あくまでも、禅の思想や精神を表現したものです。禅宗の書画を単なる美術品として展示しているところもありますが、当館の展示はそうではなく、絵画に附された「賛」（漢詩文による批評）を学芸員がていねいに解読してお示しし、あくまでも禅のこころを示す作品として展示するよう心がけています。

Q3　館内で特に注目すべき所蔵品について教えてください。

所蔵品として最も誇るべきものは、道元禅師の真筆である『正法眼蔵』嗣書の巻です。実は、この冊子は、長い間、所在が不明になっていたのですが、幸運にも、さる古物商の手を経て当館の所蔵に帰しました。劣化を防ぐため、ふだんは精巧なレプリカを展示し、毎年、春と秋の2回だけ原本を特別公開しています。入れ替えの際に何度も立ち合いましたが、私（館長）には、まったく見分けがつきません。道元禅師の文字の気品と風格は、レプリカでもひしひしと感じていただけると思います。

また「館内」ではありませんが、もう一つの大切なお宝は、この博物館の建物自体です。関東大震災で損壊した初代図書館に代わり、二代目図書館として建てられました（正式開館は昭和3年）。再来年で100周年になります。震災復興期に流行した「ライト風」と呼ばれる建築様式の特色をよく示し、昨年（2025年）、国の「登録有形文化財（建造物）」に登録されました。館内天井のステンドグラスや内外壁の建築陶器、耐震性を考慮したとされる屏風状の外壁は一見の価値があります。



『正法眼蔵』嗣書の展示



博物館外観



天井のステンドグラス

Q4　新入生に禅文化歴史博物館を説明されるときには先ずは何を紹介されますか？

多くの1年生が「新入生セミナー」という授業で初めて当館を訪れます。来館前に皆さんに、博物館制作の「駒澤大学の歴史」という10分ほどの動画を見ていただきます。「教育懇談会」の各会場でも上映されましたので、ご覧くださった保護者の方も少なくないと思います。



館内入口付近



2階から見た様子



大学の歴史についての展示

Q5　保護者が参加できる年間行事はありますか？

教育懇談会（東京地区）の日の特別開館や教育後援会の研修などで、保護者の皆さまにお越しいただいています。入学式・卒業式のときも、多くの保護者の方がお見えになります。また、一般の皆さまに開放されている公開セミナーやギャラリー・ツアー、「ふれあい禅寺めぐり」、坐禅会な

ど、生涯教育や地域連携の催しに来てくださる保護者の方もいらっしゃいます。小さいお子さんがいらっしゃるご家庭でしたら、夏休みの小学生向けイベント「子どもぜんぱく」も、自由研究の題材などにご利用いただけると思います。我々としても、多くの保護者の皆さまに、ぜひ、ご来館いただきたいと願っております。

Q6　禅文化だけでなく、駒澤大学の歴史に関する展示もあるとのことですが、学生が卒業までに授業やカリキュラムなどの一環として入館する仕組みはありますか？

前述の「新入生セミナー」でご来館いただくケースが最も多いと思います。ほかに公開セミナーなどに参加してくれる学生もいます。また、当館を見学してレポートを書く、という課題が出される科目もあります。

Q7　館内入口にカプセルコレクションがあります。どんなラインナップですか？　やはり全部仏教関連ですか？

仏像と仏具があり、世代を問わず人気があります。このほかにオリジナルのミュージアムグッズを受付で販売し、たいへんご好評をいただいています。


カプセルコレクション


取材時に購入した
ミュージアムグッズの
扇子とマスキングテープ

Q8　学生たちに一番見てもらいたいものは何ですか？

本来の自己……。博物館では、禅の心を通して、自己と対話をしてほしいと思います。展示物は「本来の自己」を照らし出す鏡にほかなりません。学生に限らず、来場者の皆さまには、展示物を通じて自己と対話する、そんな気持ちで展示を鑑賞していただければと思います。

Q9　年間何人くらいの来館者がいますか。

昨年も、一昨年も、年間2万人を超える来館者がありました。外部のメディアに取り上げられることも多くなり、学外から来てくださる一般来館者が増えています。海外の禅僧の方や禅に関心のある外国の方の来館も増えています。

1階展示品の説明でもお話ししましたが、曹洞宗は海外布教の歴史も古く、欧米でも禅の文化が広く受け入れられています。本学のご卒業生である乙川弘文（おとがわこうぶん）老師（1938―2002）とアップルの創業者スティーブ・ジョブズ氏（1955―2011）の師弟関係は有名ですが、ほかにもシリコンバレーの多くのIT企業がZENの影響を受けているようです。

Q10　博物館の名前に込められた意味や、博物館の目的は？

展示の主体は「禅」の「文化」と「歴史」です。こういう展示が見られるのは、禅宗の学校ならではの特徴の一つと言えるでしょう。でも、それだけではありません。この博物館には、駒澤大学の歴史に関する展示もあります。それは、駒澤大学に限らない、日本の教育史の貴重な資料ともなっています。

また、当博物館は、学芸員を目指して博物館学を学ぶ学生たちの、身近な実習施設にもなっています。原資料を手にしながら古い文物の扱いを学んだり、学生の企画・運営による企画展を行ったりすることで、この博物館は、学生たちの実践的な学びの場ともなっているのです。

そういう意味では、「禅文化歴史」博物館は、「禅」を切り口としつつ、広く人間の「文化」と「歴史」に触れる、活きた学習施設だとも言えるでしょう。

学生諸君に「文化」と「歴史」に触れてもらう場所は、当館の中だけではありません。当館の仕事の一つに、国立博物館の利用促進事業があります。大学が「東京国立博物館キャンパスメンバーズ」と「国立科学博物館大学パートナーシップ」に加入することによって、本学の学生が両博物館の常設展を何度でも無料で参観でき、特別展の割引や各種講座での優待なども受けられるという制度です。今年度より禅博がこの業務を所管するようになり、鋭意、利用の拡大に努めておりますが、この事業のための資金をご提供くださっているのが、ほかならぬ教育後援会です。教育後援会のご支援のおかげでこの事業を推進できることに、博物館として、深く感謝いたしております。

国立博物館の利用特典
「東京国立博物館キャンパスメンバーズ」
「国立科学博物館大学パートナーシップ」
についてはこちら

https://www.komazawa-u.ac.jp/facilities/museum/campus-members.html

禅文化歴史博物館のホームページの「館長の挨拶」がありますので、詳しくは博物館HP「館長の挨拶」
https://www.komazawa-u.ac.jp/facilities/museum/overview/　を是非ご覧ください

Q11　最後に、「悟り」とは何ですか？

悟ったことがないので分かりません。でも、むかしの禅僧ののこした言葉を読むと、「悟り」という超越的で神秘的な体験がある、そう思ってそれを追いかけようとすることこそが「迷い」なのだと考えられていたようです。

昭和の時代、駒澤大学で坐禅を指導された澤木興道（さわきこうどう）老師（1880―1965）の『禅談』という本に、こんな歌が引かれていました。

――悟りとは悟らぬ前の迷なり
　悟りて見れば悟る物なし

国語辞典や仏教辞典で「禅宗」という項目をひくと、たいてい、坐禅によって悟りを目指す宗教、そんな意味の説明が書かれています。でも、曹洞宗の禅は、そうではないようです。澤木老師は、同書でこうも説いておられます。

……ただ坐るのだ。曹洞宗には只管打坐（しかんたざ）という言葉があるが、そのただ坐るというところに深い道理がある。ただ坐る所に言わなくとも悟りはあるのです。ただ坐るところに悟りは引っ付いている。……ただ坐りさえすればそこに道がある。……



悟り、教えの展示物

取材を終えて

道元禅師は、禅とは坐禅のみならず、掃除や料理、仕事、人との関わりなど、生活のすべてが禅であり、日常生活の一つひとつに真心を込めて丁寧に営むことが禅の修行であり、その修行そのものが悟りであると説かれました。

成果や効率、競争が重視される現代社会では、私たちは結果ばかりを追い求め、「今、この瞬間」を大切にすることを忘れがちです。道元禅師の教えは、「今、この一瞬を丁寧に生きること」「目の前の行いに心を尽くすこと」そのものに人生の深い意味があることを示しています。

目的や成果を追い求め、日々の忙しさやルーティンワークに追われる現代社会において、道元禅師の思想は、自分自身の生き方を見つめ直すための大切な示唆と心の拠り所を与えてくれることでしょう。

館長・課長・学芸員さんにご対応いただきながら、2時間にわたって、館内の参観とインタビューを行わせていただきました。1階の禅文化の展示品や2階の大学の歴史を物語る展示品、すべて各々の歴史、意味や解釈や価値、展示品にまつわる裏話など、たいへん丁寧にお話しいただきました。悟りについてのお話、禅文化とITの巨人の出会い、禅宗とお茶の文化の関係、昔々の駒澤のカリキュラム……。65歳にして初めて知ることの多さにも驚きつつ、あっという間の2時間で、まだまだ時間が足りないと感じました。お忙しいところ、お時間をいただき、ありがとうございました。

写経体験をはじめ、講演会、企画展、各種セミナーなど、多彩な催しが開催されているほか、七夕や夏休みの子ども向けイベントも企画されており、世代を問わず、だれでも気軽に禅の世界に親しむことができます。

皆さんも心静かなひとときを過ごしながら、禅の歴史や文化、そして道元禅師の教えに触れるために、ぜひ一度、我らが禅文化歴史博物館を訪ねてみてください！

文化部委員（W.T）

ミュージアムグッズの
マスキングテープ



禅文化歴史博物館
最新情報は
公式SNSでCheck!

- X（旧Twitter）
  X(旧Twitter)
  博物館アカウント
  @zenpaku2002
- Facebook
  facebook
  はじめました
- Instagram
  ZENインスタグラム
- Google Arts＆Culture
  Google Arts&Culture 公開中
- YouTube
  YouTube
  禅博チャンネル



文学部 社会学科

学科主任挨拶



文学部社会学科主任
教授
濱田 国佑
KUNISUKE HAMADA

多様性を増す現代社会を担う人材の育成

文学部社会学科では社会学専攻、社会福祉学専攻の2専攻が設置されており、2026年5月現在、社会学専攻では283名、社会福祉学専攻では334名の学生が学んでいます。各専攻7名ずつ、合計14名の専任教員と2名の実習助手が配置されており、学生たちの学びを支えています。

社会学専攻では「幅広い教養と専門知識、課題解決力と表現力、多様な他者を尊重し協働する力」を身につけることを目標として、社会福祉学専攻では「福祉の諸問題を客観的、科学的に分析し、実践的に対処できるための基本的で幅広い知識と専門知識・技術を身につけ、現代社会の多様性に柔軟に対応できる社会人・職業人を育成」することを目標として、日々の教育活動を行っています。

両専攻の教育理念に共通するテーマが「多様性」です。グローバル化や流動化が進む現代においては、社会の構造を的確に理解し、個人の多様性を尊重した上で、諸課題の解決を図ることが必要不可欠です。社会学科では、こうした時代の要請に応え得る視野の広い人材を養成し、社会へ送り出すことを大きな目標としています。

本学科における教育のもう一つの特徴は、豊富な演習・実習科目を通じた実践的な「学び」です。多様性という概念は、教室での講義だけでなく、さまざまな現場に直接触れることでより深く理解できます。社会学専攻では、社会学専門演習などの科目で社会調査を実施し、フィールドワークを取り入れた授業を展開しています。社会福祉学専攻でも、各種実習や演習を通して福祉の現場での学びを深めていきます。

さらに、これらの実習や演習を通じて培われる「他者に共感する力」と「客観的に分析し論理的に説明する力」は、社会に出て多くの人と関わるようになったときにこそ、より重要な意味を持ちます。近年、デジタル化やAIの活用が急速に進んでいますが、他者への想像力、論理的な思考や説明力は、今後も人間社会の根幹をなす力であり続けると思います。4年間の学びを通して、学生たちがこうした揺るぎない基盤を築いてくれることを願っています。



Department of Sociology

社会学専攻



社会学専攻主任
准教授
土田　久美子
KUMIKO TSUCHIDA

社会学専攻について

社会学は、社会というものを冷静に見つめ、多様な視点から分析する学問です。性別や友人関係、家族といった身近なテーマから、地域社会や産業構造、国の制度、さらにはグローバルな変化まで、社会を構成する多種多様な事柄を研究対象としています。

本専攻で大切にしているのは「当然だと考えられていることにあえて疑問を投じてみる」という、物事の構造や現象の成り立ちを捉え直す視点です。専攻には7人の専任教員がおり、それぞれの専門分野に基づく多彩な授業を展開しています。

学生が無理なく段階を踏んで学べるよう、レポートやレジュメ作成の基礎から高度で専門的な議論まで、カリキュラムは体系的なカリキュラムを構成しています。また、そうした学びを踏まえて、自ら主体的に社会の現状を調べる実践的なアプローチの場も用意しています。社会調査の基礎的な考え方からデータ分析の手法について実践的に学び、「社会調査士」の資格取得も推奨しています。特に3年生のゼミは社会調査を実践する場であり、卒業論文につながるテーマと出会う重要な機会にもなります。

卒業生の進路は多岐にわたり、金融、IT、メーカー、公務員など、さまざまな分野で広く活躍しています。社会学専攻はこれからも社会学の専門知を活かし、社会に貢献できる人材を育成してまいります。

社会福祉学専攻



社会福祉学専攻主任
准教授
長尾　譲治
JOJI NAGAO

社会福祉学専攻での学生の学びと進路

教育後援会の皆様におかれましては、いつも大変お世話になっておりますこと、改めて感謝申し上げます。毎年、教育懇談会や新年賀詞交換会でご父母の皆様と交流を深めさせていただくことを楽しみにしております。

夏の懇談会でも情報提供させていただきましたが、社会福祉学専攻の学生の就職動向や国家試験合格の動向は極めて良好です。就職動向についてみると、例年卒業生の4割程度が民間企業に就職しており、3割程度が福祉専門職、残り3割程度が公務員として就職しています。民間企業では、福祉用具や各種福祉事業を展開する企業から情報通信、金融、ホテル、不動産など幅広い分野で活躍しています。専門職では、医療ソーシャルワーカーや社会福祉協議会などでの相談支援職のほか、児童・障害者・高齢者福祉施設等での生活支援など、学んだ知識と技術を生かした仕事に就いています。また公務員になる学生も多く、一般行政職や福祉職公務員として活躍しています。国家試験については、本学の現役合格率は他大学と比較しても非常に良好で、今年の試験では社会福祉士が84・6%、精神保健福祉士が3年連続100%と、学生諸君の頑張りが際立っております。

対人支援の知識と技術を身につけた人材を世に送り出す教育機関として、専攻教員一同、今後もより良い専門教育に力を注いでいきたいと存じます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

駒大教員探訪



社会学専攻　教授
深澤　弘樹
HIROKI FUKASAWA

専門分野
メディア・コミュニケーション論
（テレビニュース・スポーツ実況研究）

私はもともと地方の放送局である山梨放送に18年間、アナウンサーとして勤務し、２０１０年に本学に着任しました。早いものですでに16年が経過し、まもなく以前の会社で勤めた年数に並びます。改めて月日の流れの早さに驚くばかりです。

アナウンサー時代には、ラジオ、テレビの情報番組、ニュースのほか、スポーツ実況も数多く経験しました。その間、働きながら大学院に通い、博士（社会情報学）の学位を取得したことが研究者への道を開くことになりました。大学院時代には、修士論文で高校野球、博士論文でテレビニュースを研究対象とし、そのときの問題意識が現在の研究につながっています。

ここ数年、取り組んできたのがニュースキャスター研究です。テレビ世代の私たちがキャスターと聞いて思い浮かべるのは、今年お亡くなりになった久米宏さんや、元新聞記者の筑紫哲也さんではないでしょうか。かつては反権力の姿勢を打ち出し、自分の意見を述べるスタイルが主流でしたが、近年はより親しみやすさを前面に出したキャスターが好まれる傾向にあります。

インターネットが普及した今は情報を得ることが容易ですし、AIに聞けば何でも教えてくれます。そうした時代だからこそ、視聴者は情報そのものだけでなく、共感や安心感を求める傾向があるのではと考えており、私はキャスターの存在意義とは何かをインタビュー調査から探りました。見えてきたのは、視聴者や取材対象者に寄り添い、自分の言葉で語ることを大切にするキャスターの姿勢です。

この研究では、全国の10社をまわり、ニュースの担当者やキャスターに話を聞きました。インタビューのなかで必ず話題に上るのは「テレビ離れ」です。大学生のなかにはテレビを持っていない方も一定数いますし、総務省の「令和7年通信利用動向調査」によると、２０２５年にはスマートフォンを持っている世帯の割合（91・8％）がテレビ（90・1％）を初めて上回りました。放送業界に長く関わった私にとってはショックな数字でした。

数字が示すとおり、既存メディアは相対的にその力を失いつつあります。現場の方々も放送業界を取り巻く環境の変化を感じていて、インタビューでは、強い危機感やジレンマを耳にすることも少なくありません。その一方で、自分たちの仕事に誇りを持ち、事実を一つひとつ確かめながら日々の業務にあたる真摯な態度も浮かび上がってきました。「正確な情報を伝える」「根拠に基づいて語る」というプロフェッショナルな営みは、既存メディアが培ってきた財産ですし、まだまだその可能性と役割は大きなものがあると私は感じています。

学術的な成果を挙げるだけでなく、既存メディアの可能性を探ることが放送局出身の研究者である私の使命だと思っています。メディア激変期の現在、現場と学術を架橋するとともに、あるべきメディアの姿を学生と一緒に探究していきたいと考えています。





社会福祉学専攻 講師
延原 稚枝
WAKAE NOBUHARA

専門分野
障害者福祉

「障害」とは何か、そしてその在り処はどこかを考える

私は、文学部・社会学科・社会福祉学専攻で、主に障害者福祉を担当しています。

私の授業では、心身の機能に障害があることを「機能障害（impairment）」、その機能障害があることによって生活や社会参加において障壁が生じることを「障害（disability）」と捉え直してもらうことからはじめます。つまり「障害」の在り処は、いわゆる「障害者」と呼称される人のからだの内側ではなく、社会の側にあるという考え方（これを『障害の社会モデル』と言います）を学んでもらうわけです。この『障害の社会モデル』という考え方は、これまで学生の皆さんが、「障害者（障がい者）」と呼称される人たちのことを捉えてきた考え方と異なることが多いようです。だからこそ、講義の中でも、歴史的な経緯を学ぶとともに、ゲスト講師の講義や、ゲスト講師と担当講師とのディスカッションを聞いてもらう機会をしばしば設けています。障害者福祉の発展過程からも学生の皆さんは新たな気づきを得ていますが、様々な現代の実践や事例を見聞きする中で、機能障害がある人に社会的障壁が生じたり、社会的抑圧にさらされたりする事象を抽象的な概念ではなく、今まさに起こっている現実の問題として考察する機会になると考えているからです。

私は、障害者福祉の中でも、障害がある人の権利擁護支援を専門に研究しています。とりわけ、障害がある人たちのライフイベントである結婚・出産・子育てと、その時期の周囲の人のかかわりや、サポートについて深く研究しています。少し意外に思われるかもしれませんが、社会福祉関連の法制度では、障害がある人、子育てをしている人それぞれについては、生活における困りごとを想定してサポートをいくらか準備してきました。しかし、いくつかの生活のしづらさが重なった状況にある人のことは十分に想定した制度とは言い難い状況にあるということを調査等で明らかにしてきました。すなわち「機能障害がある人の子育てにおける『障害』は法制度の設計や運用にもある」ことを見出してきたと言えます。

このような私の社会福祉実践に根差した調査研究のスタイルは、少人数で行うゼミ活動においても活かされています。ゼミ活動では、ゼミ生の皆さんの研究関心に基づいてフィールドワークやゲスト講師の講話を設定したり、文献講読をしたりしてもらい、研究内容を定めます。ゼミ生の皆さんは仲間の力も借りながら研究を進め、新しい知見が得られた研究については、社会福祉にかかわる学会等で発表することもあります。このようなゼミ活動を通じて、確かな視座に立つことができるようになっていくことを感じています。私自身も多くの気づきを得ていますが、ゼミ生の皆さんが、社会の側にあるすぐに答えの出ない課題に対峙することを通じて、その視座を高めてくれていると感じています。

これからも研究と教育を車の両輪として、未来を担う学生たちとともに成長していきたいと考えています。



せたがや福祉区民学会への参加


ゲスト講師を招いた授業

このゼミに注目！


李ゼミ学生が企画・主催したTOWA RADIOイベント（2025年度）

市民による地域プロジェクトを独自の視点からフィールドワーク

近年日本各地で、コミュニティカフェや銭湯などのコモンスペースを拠点にしたまちづくり、子ども食堂のような各種居場所づくりなど、さまざまな分野で市民による個性的な地域プロジェクトが展開されています。行政や市場の補完と見なされがちですが、個々人の思いや行動によって動かしやすく、自律性と自由度が高く、イノベーティブな取り組みが容易で、個人の豊かな生き方の実現だけではなく、社会システムに変革をもたらす可能性が大いに見出される領域です。

李ゼミでは、ボトムアップで社会を変える方法を探るという大きな目的に向けて、多様な市民が関わる地域プロジェクトを調査研究しています。都内を中心に興味深いプロジェクトを選定し、参与観察とインタビューを中心とするフィールドワークを実施しています。ここ数年は、空間や緑、ローカル路線や商店街、銭湯やカフェなどの地域資源を共有活用する市民的コモンズを数多く調査しています。例えば旧池尻中学校を再生した新たな複合地域施設IKOMEWORK VILLAGEや、駒沢大学駅前の商業施設の再開発で生まれた駒沢こもれびプロジェクト、商店街・ハッピーロード尾山台のタタタハウスを拠点とするおやまちプロジェクトや、世田谷線沿線の商店街でまちづくりをするNPO法人まちこらぼ、小田急線の線路跡地にできた下北沢のボーナストラックとシモキタ園藝部や、フォレストゲート代官山にあるサーキュラー・エコノミーの拠点TENOTA、松陰神社前駅近くの「100人の本屋さん」や千歳烏山のコミュニティカフェ「ななつのこ」、府中市多磨霊園駅前にある古アパートとカフェで展開されるコミュニティ事業「たまれ」や、高円寺にある老舗銭湯の隣にできた「小杉湯となり」などです。

フィールドワークで特に大事にしていることは二つあります。一つはこれらのプロジェクトのキーパーソン、地域をフィールドに面白く楽しく意味深く生きる大人たちと出会い、彼らのライフストーリーを丁寧に聞き取り、彼らが手掛けているプロジェクトを社会学的に分析するだけではなく、同時にその豊かな生き方から彼らの考え方や価値観、人生の哲学や知恵を学ぶことです。もう一つは、聞き取りをするだけではなく、自分たちでも調査対象のプロジェクトに実際に参加してみたり、独自のイベントを企画したりするなど、単なる「習い事」にとどまらない、メンバー一人ひとりが「自分事」として手ごたえが感じられる体験をしてみることです。

いつもの日常では出会えないような大人たちと出会い、人生や社会を語り、実際に地域でイベントを仕掛けたりしてみることで、学生たちが卒業後も、地域やコミュニティという第三のワールドを持つ、市民性豊かな大人になっていくことが期待されます！

ゼミ生からひとこと



ゼミの魅力は、「現場」を自分たちの五感で感じ取る機会が多いところにあります。3年次のフィールド調査では、世田谷区や周辺地域にて面白いコモンズ・場所づくりを行うNPO法人や施設を調査対象とし、そこでインタビューを行います。そこは、地域とどう繋がり、その背景には何があり、更にはキーパーソンのライフストーリーまでも掘り下げます。このような座学のみでは知りえないことに出会えるのが、社会学の面白みだと思います。

ゼミでは、ゼミ長の役割を設けていないため、全員が責任と役割を持ち、支え合いながら調査などを進めていきます。友人たちとの協力や先生からの手厚いサポートのおかげで、充実した大学生活を送ることができていると思っております。

社会学専攻3年
石川 和樹

李妍淵ゼミ

専門分野

市民社会論とソーシャル・イノベーション論

演習テーマ

地域プロジェクトと市民的コモンズの形成



社会学専攻　教授
李　妍淵
YANYAN LI

卒論までのスケジュール

▼3年生
- 4月〜6月　調査対象の選定、先行研究の整理、調査先への依頼
- 7月　インタビュー調査の実施
- 8月　インタビュー調査の文字起こし
- 9月〜10月　調査結果の整理
- 11月〜12月　調査データの分析、ゼミイベントの実施
- 1月　調査報告書の作成


地域の居場所「ふかさわの台所」で開催した「読書発表×対話」イベント（2024年度）

鬼塚香ゼミ

専門分野

精神保健福祉・ソーシャルワーク・ソーシャルペダゴジー

演習テーマ

日常生活支援にある専門性



鬼塚ゼミは、日本ではあまり聞きなれない「ソーシャルペダゴジー」をヒントに、人と関わることとそれによる成長を「しあわせ」と捉え、活動しています。

ゼミの特徴は、とにかく地域の方々と関わることです。世田谷区が「あそび月間」と定めた6月には毎年、児童館の子どもたちを大学に招き、「逃走中@駒澤大学(鬼ごっこ)」を開催しています。子どもも大学生も普段はとても忙しいですが、この時だけは「本気で遊ぶ」「遊びに集中する」を体験します。また、世田谷区内のご協力くださる複数の施設や機関へフィールドワークに出かけます。継続的なフィールドワークは、関係を変え、関わり方を変えます。利用者のためにプログラム企画を任されることも多く、見学者から「場をともに作る人」へと成長していきます。

だからといって、勉強にも手を抜くことはありません。フィールドワーク開始前には、みんなでソーシャルペダゴジーの本(英語)を読み、人と関わる際の基本的な理論を学びます。また、せたがや福祉区民学会への参加や卒業研究報告会（年2回）で、インプットとアウトプットを繰り返しながら、考えたことを研究としてまとめます。

2年間のゼミ活動を通じて、自分や誰かの「しあわせ」を大切にできる人が育ち、社会の「しあわせ」に貢献していけたらと思っています。





社会福祉学専攻　准教授
鬼塚　香
KAORI ONITSUKA

卒論までのスケジュール

4月～	ソーシャルペダゴジー読解
6月	逃走中@駒澤大学
9月～	フィールドワーク
12月	せたがや区民福祉学会
2月	ゼミ合宿
4年生	
4月～	卒業研究着手
8月	ゼミ合宿
9月	卒業研究中間報告会
12月	卒業研究完成
2月	卒業研究成果報告会

ゼミ生からひとこと

鬼塚ゼミでは、メンバー同士で積極的に意見を交わしながら、それぞれが関心のある分野を選び、主体的に研究を進められることが魅力です。先生は一人ひとりの考えに親身に耳を傾けてくださるため、安心して学びを深めることができます。ゼミに所属して間もない頃には、地域の児童館と連携し、鬼ごっこイベントを企画・運営しました。児童館の職員の方々や子どもたち、ゼミの先輩方との協働を通して、企画運営の楽しさと難しさを学ぶことができました。また、フィールドワークに参加し、現場での学びを深められる機会も多くあります。こうした実践的な活動を通して、企画力やコミュニケーション力、協働する力を養うことができる点も、鬼塚ゼミならではの魅力だと感じています。



社会福祉学専攻３年
中山　桃花

学生たちの声



社会学専攻４年
二宮 颯太

私はもともと社会学の知識はほぼありませんでした。高校まで習ったことがなかったので、ゼロからのスタートでした。駒澤大学では、1年次から社会学の授業は基礎・応用を積み重ねて丁寧に知識を増やし、基礎がしっかりできたうえで、自分の興味のある学問を深掘りできるところが魅力だと思います。社会学は環境学や倫理学など様々な学問とも複雑に絡んでおり、自分の興味をそそるものがきっと見つかると思います！　私が所属しているゼミでは、3年次に国際結婚について研究をしました。今まで関わってこなかった人々とのインタビューを通した交流や先行研究の探索など価値観がどんどん広がっていくような学びを得ていると感じます。



社会学専攻４年
上 花楓

入学当初、私にとって一番答えるのが難しかった質問は「社会学って何をするの」という問いでした。幅広い事象を扱っている分、一言で表すのが難しいですが、4年間の講義やゼミを通して、「世の中の当たり前に疑問を向けること」であると自分なりの回答を見つけることができました。片岡先生のゼミでは、一つの事実にも、いくつもの要因や背景が影響しあっていることを学びました。物事を人一人のせいであると決めつけなくなったことが、大学生活での大きな収穫です。多くの人が素通りしてしまうような事象でも、「何故だろう」と広く考えられるようになったのは、社会学科で当たり前を疑う考え方を学べたからだと思っています。



社会学専攻４年
秋山 咲希

子ども食堂に関心があり、社会学をより学びたいと思ったことから3年次編入をしました。編入ということで周りの3年生よりも多くの授業を履修しながら、アルバイトや就職活動にも取り組み、忙しくも充実した大学生活を送ることができました。ゼミ活動では、実際に世田谷区の子ども食堂でボランティア活動を行い、運営者へのインタビューなどを通して座学だけではわからない現状を学ぶことができました。また、ゼミのメンバーとそれぞれ訪れた子ども食堂の情報を共有することで、雰囲気や方針など、同じ子ども食堂でもそれぞれに特色があることを知り、大きな学びとなりました。興味のある分野を実際に学び、経験できる環境に身を置けたことを嬉しく思います。残りの大学生活も悔いなく過ごしていきたいと思います。



社会福祉学専攻３年
石川 未怜

「誰かの役に立ちたい」という思いから始まった私の大学生活は、授業や実習を通して「誰かと共に歩むこと」の大切さを知る時間へと変わりました。一人ひとりの思いに耳を傾け、言葉だけでは伝えきれない思いにも心を寄せ、その人を理解しようとすることの大切さを感じるようになりました。このような学びを得られたのは、学生一人ひとりに親身に寄り添い、ご指導くださる先生方や助手の先生、励まし合える友人、いつも応援し支えてくれる家族など、多くの方々との出会いに恵まれたからです。大学生活を通して、人とのつながりの温かさを実感し、充実した日々を送ることができています。これからも支えてくださる方々への感謝を忘れず、入学当初からの夢である医療ソーシャルワーカーを目指して学び続けていきたいと思います。



社会福祉学専攻３年
鈴木 文菜

私は入学当初、社会福祉について漠然とした興味しかありませんでした。しかし、授業や23日間の実習を通して、一人ひとりの想いや生活に目を向ける社会福祉の奥深さに魅力を感じるようになりました。

特に3年次の実習では、「患者ではなく生活者としてその人を見る」という視点を学ぶとともに、自分自身とも向き合うことができました。また、学業に励んできたことを評価していただき、学長学業奨励賞をいただけたことは、これまでの学びを続けてきた自分にとって大きな自信につながりました。こうした学びや経験を積み重ねる中で、多くの価値観に触れ、人との出会いにも恵まれたことは、大学生活の大きな財産となっています。

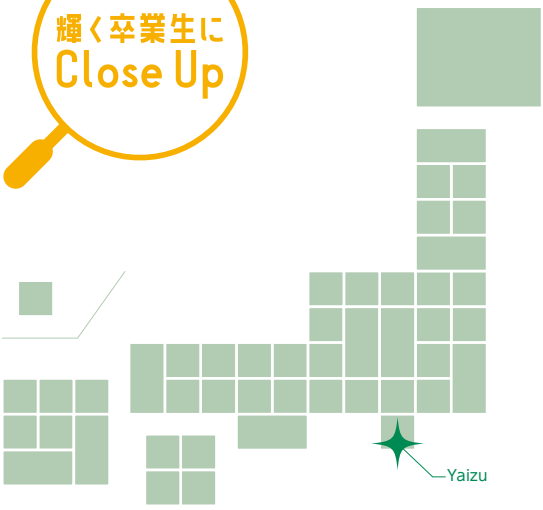
社会福祉学専攻には、互いに支え合い、高め合える仲間や、親身にご指導くださる先生方がおり、安心して学びを深められる環境があります。卒業後の進路はまだ模索中ですが、大学での学びを活かし、一人ひとりの想いに寄り添える人を目指していきたいと思います。



社会福祉学専攻３年
望月 真希

私は児童福祉に興味があり、社会福祉学専攻を希望しました。大学ではサークルや部活動には所属していませんが、大学で出会った友人たちは私にとって大切な存在です。授業で意見交換をしたり、空き時間に何気ない話をしたりする中で、互いに励まし合える仲間となり、充実した大学生活を送ることができています。また、23日間の児童養護施設での実習では、子どもたちと信頼関係を築くことの大切さと難しさを実感するとともに、多くの学びを得ることができました。先生方や友人の支えがあったからこそ最後までやり遂げることができ、教科書や講義だけでは得られない貴重な経験となりました。残りの大学生活でも、一つひとつの学びや出会いを大切にし、将来に生かしていきたいです。

輝く卒業生に Close Up



地方で活躍する 駒大卒業生の皆さん

第29回



有限会社 丸玉園
代表取締役

増田 啓介さん

KEISUKE MASUDA

昭和61年11月28日生まれ（39歳）
静岡県焼津市出身
静岡県立静岡商業高等学校卒業
駒澤大学経営学部卒業　2009年3月卒業

日本茶の未来を切り拓く挑戦

はじめに

駒澤大学を卒業してから早いもので17年が経ちました。現在、私は太平洋と富士山を望む静岡県焼津市で暮らしています。

我が家は1950年創業のお茶屋「丸玉園」を営んでおり、私はその3代目として家業を継ぎ、日々の仕事に励んでいます。私生活では妻と3人の子どもに恵まれ、賑やかで充実した毎日を送っています。

ちなみに妻も駒澤大学のOGで、学生時代に所属していた旅行サークルで出会ったことが縁で結婚いたしました。

最高の仲間と出会い、価値観が大きく変わったキャンパスライフ

大学時代は旅行サークル「way farer」に所属し、夏には沖縄を訪れるなど、先輩や後輩、友人たちと心から楽しい時間を過ごしました。また、学生マンションで暮らしていたため、同じ建物内に何人も友人がおり、毎日語り合い遊んだ日々は、まさに人生で一番充実した時間でした。





サークルの仲間

さらに大きな転機となったのが、大学3年次に挑んだ1か月間の東南アジア（タイ、カンボジア、ベトナム、ラオス）バックパッカー旅です。現地で受けた数々の衝撃は私の価値観を大きく変え、「日本という国がいかに恵まれているか」を身をもって実感する貴重な体験となりました。

経営学部での学びと、日本茶の未来を切り拓く挑戦

在学中は経営学部に身を置き、経営の基礎を学びました。当時は基礎知識として吸収していた学問でしたが、実際に家業の経営に携わるようになってから「学生時代に学んでおいて本当に良かった」と実感する場面が多々あり、今の仕事の大きな支えとなっています。

お茶のある暮らしを取り戻す――3代目としての挑戦

丸玉園では、お茶の仕入れから製造、販売までを一貫して手がけています。元々、焼津市内に2店舗を構え、小売を中心にお茶を届けてきました。しかし近年、若い世代を中心とした「お茶離れ」は非常に深刻です。この現状を前に「もう一度、日本茶のある暮らしや習慣を取り戻したい」という強い想いを抱き、私は3代目として二つの新しい事業に乗り出しました。

一つ目は、若い方向けのセカンドブランド「sanowa（サノワ）茶の輪」の立ち上げです。丁度この頃に弟も入社し若いメンバーのみでブランドを構築していきました。フレーバーティーや単一品種の魅力を味わえるシングルオリジンのお茶を展開するとともに、店舗にはカフェを併設しました。さらに、お茶に合うお菓子もこだわりの素材を用いた自社製造へと切り替え、どら焼きや焼き菓子、クッキーなどを一から手掛けています。カフェでお茶とお菓子を気軽に楽しんでもらい、日本茶の新しい魅力を発見してもらうきっかけ作りを目指しています。

二つ目は、飲食店向けのお茶割り用お茶ブランド「匠の

お茶製造のようすと丸玉園本店　店内


お茶の拝見









お茶割り」の開発です。「お茶を飲む機会を創出し、その美味しさを知ってほしい」という一心から、居酒屋などでお使いいただくお茶割りに着目しました。お茶割り1杯に対しティーバッグ5gを丸ごと1個使うという斬新な淹れ方を提案し、現在では全国200店舗以上の飲食店で取り扱っていただいています。居酒屋で感動するほど美味しいお茶割りと出会い、それをきっかけに日常でもお茶を飲む習慣が生まれてくれればこれ以上の喜びはありません。

創業から今年で76年を迎えます。終戦直後に祖父が創業し、父が情熱を注いで成長させてきた大切な会社を、3代目として受け継ぎました。厳しい業界ではありますが、時代に合わせて新しいことに果敢に挑戦していきたいと考えています。私が次の世代にバトンをつなぐまで、必死に頑張っていこうと思います。

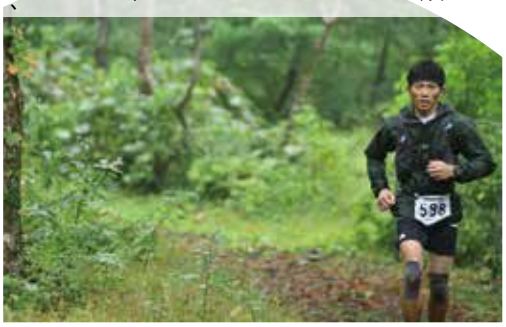
走ること、挑むこと——仕事にも通じる挑戦の原動力

仕事に全力を注ぐ一方、プライベートで熱中しているのがランニングです。元々、走ることが好きではなく、ダイエット目的で始めたのがきっかけでした。しかし、毎日コツコツと努力した分だけ結果が出る楽しさにはまり、昨年の静岡マラソンでは念願のサブ3（3時間切り）を達成することができました。

さらに自然の中を走るトレイルランニングにも魅了され、昨年の信越五岳トレイルランニングレース100mile（約160km）では総合21位でゴールすることができました。次の目標は、世界の最高峰とされるフランスのUTMB（ウルトラ・トレイル・デュ・モン・ブラン）100mileでの完走です。

日々のトレーニングで培う「地道にコツコツと努力を積み重ねる大切さ」は、まさに家業の経営や新しい商品開発にもそのまま通じるものがあります。仕事にも趣味にも、常に全力投球です。









家族の応援を受けて信越五岳100mileを完走





丸玉園 登呂田店　(上)外観（下)店内

令和8年度 教育懇談会を終えて

教育懇談会は、駒澤大学と駒澤大学教育後援会の共催により実施しています。大学代表、教育後援会代表、職員が各会場に赴き、駒澤大学で学ぶ学生のご父母（保証人）を対象に、大学の近況を報告し、学生生活の様子をお伝えするとともに、参加者の皆さま同士の交流や教職員との懇談を図ることを目的としています。令和8年度の教育懇談会では、全国24会場にて約1、400人のご父母の方々にご参加いただきました。

教育懇談会プログラム

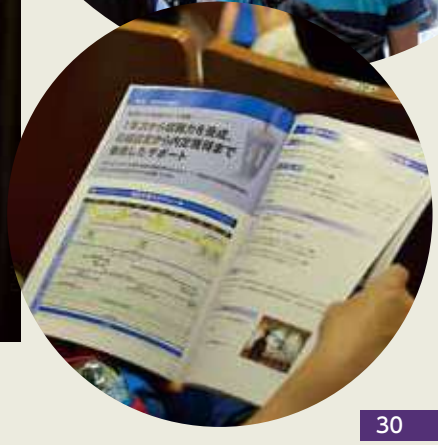
	東京会場	地方会場
◆大学近況報告	◆各部の全体説明 ①学生生活に関する説明 ②学業成績に関する説明 ③留学・国際交流に関する説明 ④就職に関する説明	◆各部の全体説明 ①学生生活に関する説明 ②学業成績に関する説明 ③就職に関する説明
◆教育後援会の説明	◆昼食（参加者と後援会代表者、教職員による歓談）	
	◆大学教員によるミニ講義 ①キャンパスツアー ②図書館自由見学 ③禅文化歴史博物館自由見学	①職員による個別面談 ②懇談会











昼食









キャンパスツアー



図書館見学



ミニ講義









禅文化歴史博物館見学





オンライン個別相談

7月11日（土）・20日（月・祝）に、履修・成績、就職、サークル活動、学内奨学金、カウンセラーへの相談についてお申し込みいただいた全国のご父母を対象に、Zoomにてオンライン個別相談を実施いたしました。

令和8年度　教育懇談会
参加者の声

教育懇談会にご参加いただいた方々の
ご意見・ご感想をご紹介いたします。

5月31日(日)◆松本会場
経済学部
経済学科２年の父母



学長や職員の方のお話から、本当に良い環境の中で学ばせてもらっていることを改めて実感しました。
また、昨今の就職活動が、早期化・長期化となっている要因を知ることができました。娘に「キャリアセンターにぜひ行くように」と熱く話をしておきました。
昼食懇談会では、他の保護者の方とお話ししながら、地方の親の気持ちを共有することができ、とても有意義な時間となりました。長野支部の記念式典も行われ、支部の礎を築いてくれた方々にパワーをいただきました。「親も楽しもう！」と仰ってくれた言葉が印象的でした。

5月31日(日)◆静岡会場
経営学部
経営学科１年の父母



子供を上京させたばかりで生活面、学業面で心配が多く、参加した方がいいのかなと思いながら参加しました。大学の先生、職員の方から直接お話を聞くことで不安がかなり解消され、参加して本当に良かったと感じています。
息子はまだ就職のことを考えていませんが、キャリアセンターの支援や就職情報がとても充実していると知り、ぜひ本人にも伝えたいと思いました。サークル活動の支援も知ることができ、大学生活の幅広いサポートに安心しました。来年以降も是非参加したいです。

6月6日(土)◆鹿児島会場
文学部
心理学科３年の父



前回（鹿児島は隔年で開催）参加しましたが１年生の時で、今回は３年生で２回目となります。最後かもしれないと思い参加しました。大学ではキャリアセンターのサポートだけでなく学生への多岐にわたる支援があることを知ることができました。また、個別相談では「就活で今すべきこと」など情報を聞けたことで、安心することができただけでなく職員の方から『是非、センターへ訪問するように子供に声かけしてほしい』とあったのでその旨、本人に伝えたいと思います。ありがとうございました。

6月7日(日)◆熊本会場
文学部
社会学科１年の父母



初めて教育懇談会に参加しました。大学は授業料を納めるだけで、大学の様子は分かりにくいと感じていましたが、今回の参加を通じて大学の取り組みを具体的に知ることができ、娘を安心して通わせることができます。教育後援会の活動内容や大学には教務課、学生支援課、キャリアセンターなど、学生生活をどのように支えているか良く分かりました。１年生でこのような情報を知りえたことは、とても大きな収穫であり有意義な１日となりました。ありがとうございました。

6月13日(土)◆郡山会場
文学部
地理学科４年の父母



２回目の参加です。
前回同様大学の最新情報がわかりとても有意義な時間でした。
ネットや会報では知り得ない内容を、直接聞く事ができるのが魅力です。
また、昼食時には他の保護者の方、教職員、教育後援会の方々と親睦がはかれてとても楽しかったです。
子供が駒澤大学に通っているからこそ親も体験出来ることがあると改めて感じました。
皆さんも是非、教育懇談会に参加してみて下さい。

6月14日(日)◆宇都宮会場
経営学部
市場戦略学科２年の母



大学のイメージは、保護者の出番はなくどんな活動をしているのかわからないという思いがありました。貴重な機会だと思い参加しました。
大学の創設の歴史をはじめ、学生生活や就職活動の現状について伺い、職員と保護者の方との交流ができ、個別相談も丁寧にわかりやすく対応していただきました。離れて暮らす子供の状況がわかり、とても充実した時間となりました。副学長さんの講座では、栃木の歴史を盛り込んだ仏教の講義でとても興味深いお話で素晴らしいと思いました。ありがとうございました。
大学にお力添えをいただきながら、子の成長をサポートしていきたいと思います。

6月20日(土)◆盛岡会場
仏教学部
禅学科４年の父



教育懇談会に初めて参加しました。教職課程で必要な実習が残っているなど４年で無事に卒業できるのか不安でした。しかし、先生と昼食会で直接お話しする機会をいただき、また、就職支援を含め大学のさまざまなサポート体制を知ることができたことで、不安が解消されました。子供自身も親に負担をかけていることを理解しているようで、あとは単位をしっかり取得し卒業を迎えてほしいと願うばかりです。仏教学部に進学したことをきっかけに、一昨年には私自身も大学にて坐禅体験をして、少しでも禅や仏教への理解を深めたいと思っていました。午後のミニ講義で「道元禅師の言葉に学ぶ」を聴講でき、禅について学ぶことができ大変有意義な１日でした。

5月23日(土)◆高崎会場
経済学部
１年の父母



初めて教育懇談会に参加しました。
親元を離れているので日々の生活が見えず、とても不安でしたが今回あらゆる方面の情報をいただき、学生一人一人に寄り添ったサポートが整っていることに驚き安心しました。
今後の就職活動の際にはぜひ、手厚い支援が受けられるキャリアセンターを活用してほしいです。
また、昼食会での保護者同士の会話も楽しく、参考になることが多く情報を得ることができました。参禅研修にもぜひ参加してみたいと思います。

5月23日(土)◆水戸会場
文学部
歴史学科１年の父母



今回、水戸市で懇談会が開催されることを知り、どのようなお話が伺えるのか楽しみに参加いたしました。大学の就職支援や学生生活のサポート体制について直接お話を伺うことで、普段は見えにくい大学の取り組みへの理解が深まり、親として大きな安心感につながりました。子どもが安心して学べる環境が整っていることを、改めて実感しております。職員の方々はとても親しみやすく、こちらの質問にも丁寧に答えてくださり、大学の温かい雰囲気が伝わってきました。子どもは大学生活の中で新しい経験を積み、少しずつ成長していると感じています。その姿を思い浮かべながら、今回の懇談会に参加できたことに感謝し、次回もぜひ参加したいと思える充実した会でした。

5月24日(日)◆新潟会場
経営学部
経営学科１年の母



４月に入学したばかりですが友人もできサークル活動も始めておりひとまず安心しております。今回タイミングよく懇談会に参加でき貴重なお話を伺えて大変有意義でした。特にキャリアセンターのサポート内容を拝聴し学生一人ひとりに対し丁寧に対応、指導されている体制に、親として非常に心強く感じました。また後援会の行事の内容を聞け今後なんらかの参加ができたらと思います。

5月30日(土)◆岡山会場
経営学部
経営学科３年の父母



毎年参加させて頂いております。子供から大学生活、学業の様子があまり伝わってこない中、個別相談では大学の具体的な取り組みや最新情報を知ることができ、とても有意義な時間となりました。また、教育後援会や大学による学生支援体制がしっかり整っていることを改めて実感しており、安心できる環境だと感じました。特にキャリアセンターの手厚いサポートがあることを知り、まだ活用していない子供にぜひ利用を勧めたいと思います。
昼食会では保護者同士でお話しができまた、毎年楽しみにしているミニ講義も聴講させて頂きとても充実した１日でした。来年も是非参加したいと思います。

5月30日(土)◆甲府会場
文学部
社会学科４年の父母



今まで懇談会が行われていたのは知っていましたがハードルが高く参加出来ていませんでした。
４年生になり最後なので参加しました。
大学の様子や内容がわかってよかったです。
もう少し早く参加すればよかったです。
来られていた職員の方が子供と同じ学部の出身でこれからのことや、不安な点を詳しく聞くことができてよかったです。
今日、来てみて学校や先生が身近に感じられてよかったです。

5月30日(土)◆津会場
文学部
心理学科３年の父母



入学直後、三重県支部長よりお声掛けをいただいたことをきっかけに、毎年、教育懇談会に参加させていただいております。
親元を離れ、一人暮らしをしながら学業に励む娘を見守る立場として、日々気掛かりなことも少なくありません。しかしながら、教育懇談会では大学の教育方針や学生支援制度、後援会の活動について詳しくご説明いただき、学生一人ひとりを大切に支える充実したサポート体制が整えられていることを知り、大きな安心感を得ることができました。
今年で参加は３回目となりますが、駅伝応援や新年賀詞交歓会などの行事を通じて、三重県支部の皆様をはじめ、本部役員の皆様とも親しく交流させていただいております。このようなご縁をいただけることに、心より感謝しております。
今回の教育懇談会では、大学の将来を見据えた新たな取り組みについても数多く紹介されました。少子化や大学を取り巻く環境が大きく変化する中にあっても、時代の要請を的確に捉え、果敢に改革へ挑戦し続ける駒澤大学の姿勢に、深い感銘を受けました。

6月27日(土)◆福岡会場
文学部
社会学科１年の父母



今年入学したばかりで、また遠方のため、普段なかなかわからない大学の様子を知ることが出来たらと思い、参加させて頂きました。大学や後援会の様々な取り組みや学生へのサポート活動を知ることができました。昼食時には後援会役員の方や、同じようにお子様を一人暮らしさせている保護者の方たちと色々とお話ができて、とても楽しかったです。ご参加を迷われている方がおられたら是非参加をおすすめしたいです！

6月28日(日)◆広島会場
医療健康科学部 診療放射線技術科学科１年の父母



地方からの進学で初めての一人暮らしと大学生活、両立できているのかとても心配でした。
教育懇談会では履修のこと、各種奨学金、学部ならではの就職活動の仕方など普段聞けないことをいろいろ教えていただきました。
医療系学部というのもあり、一般的な就職活動とは異なるため今後どの様に動けば良いのだろうかと不安でしたが、職員の方から詳しく教えていただき感謝しております。
直接お話を聞ける貴重な機会となりました。

6月28日(日)◆秋田会場
経営学部
経営学科１年の母



初めて教育懇談会に参加しました。これまでは大学のことを子どもに任せきりでしたが、大学の現状や単位取得、進級・卒業に向けた基準などを詳しく知ることができ、とても参考になりました。また、娘は仏教学部ではありませんが、全学生が仏教を学ぶ機会が設けられていることを知り、駒澤大学ならではの教育の特色を実感しました。特に「智慧」「慈悲」「縁起」に基づいた教育の大切さを改めて感じ、安心して娘を任せられる大学だと思いました。

7月5日(日)◆東京会場
文学部
国文学科４年の母



今年で４年目の参加となりました。
普段なんとなく気になっている子どもの学生生活について、直接学科の先生と保護者同士で話せてありがたく思っています。
今年参加して、子どもの学生生活の様子を知ることができ、モヤモヤが解消されました。また、この機会を通して、保護者とも交流することができ、新しい場所に参加する機会を持つことができました。

7月5日(日)◆東京会場
文学部
国文学科１年の父母



今回は夫婦で初めて参加しました。子どもが学んでいる学校がどんなところなのか、自分たちの目で見てみたいと思ったことがきっかけです。大学でも保護者向けにこのような活動があることに驚き、親が学校に関われるのは高校までだと思っていたので、このような機会があることがうれしかったです。午前中は留学や就職活動についてのお話を聞くことができました。昼食では先輩保護者の方からゼミやサークル活動、教職課程について教えていただくことができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。

7月5日(日)◆東京会場
経済学部 現代応用経済学科２年の保護者



今回で２回目の参加です。保護者が参加できるイベントには、なるべく参加したいと思って参加いたしました。毎回、新しい情報を得ることができるので、とても有意義だと感じております。上の学年の保護者の方からいろいろなお話を聞ける機会があり、とても参考になりました。就職活動のサポートについてのお話も参考になりました。留学についても事前に知ることができて、よかったです。

7月5日(日)◆東京会場
文学部
地理学科３年の母



今年初めての参加でした。教育懇談会に参加しようと思ったのは、DMをみて、大学の様子をみてみたい、という思いからでした。
参加してみて、東京会場の参加者の多さに驚きましたが、同じ学部学科に所属している保護者の方とお話できて、よかったです。
今回参加してみて、就職に至るまでの内容が聞けて、ざっくりと就職活動のスケジュールが分かり、よかったです。

6月20日(土)◆大阪会場
文学部
歴史学科１年の父母



受験も入学式も主人が付き添い、大学との接点が無かったため、どんな雰囲気の中で学校生活を送っているのか気になっていたので、今回参加させて頂きました。
教員・教育後援会・教務部・キャリアセンター・学生支援センター各担当者様より概要をお伺いした後、会食時には教育後援会の方より同じ父兄目線で学校生活等のお話を伺い、楽しんで会談させて頂きました！
個別相談では履修、教職課程、交換留学、大学院進学など、息子が関心を示している進路相談に対し、真摯に対応、アドバイスを頂き大変感謝しております。息子と相談しつつより良い学校生活を送れるよう検討していきたいと思います。
とても貴重なお時間を頂きありがとうございました。

6月20日(土)◆富山会場
文学部
社会学科１年の母



案内はがきを見て、今年駒澤大学に入学した子どもとのご縁を通じて大学とのつながりを感じ、初めて教育懇談会に参加しました。まず、大学と教育後援会がそれぞれの立場で学生を支える様々な活動に心を打たれ、その支援の広がりを知ることができました。開始前に上映されたドローン映像では、教場や図書館などの施設を知ることができ、実際に訪れる機会の少ない保護者にとって大変参考になりました。また、遠方で一人暮らしをする子どもを見守る保護者として、学生主体の支援活動や学生同士が支え合う取り組みを知ることができ、大きな安心感につながりました。さらに、ミニ講義では大学の歴史や仏教との関わりについて理解を深めることができ、とても有意義な時間となりました。

6月21日(日)◆仙台会場
法学部
法律学科３年の父母



昨年、一人で初めて教育懇談会に参加して、大学の近況や後援会活動について伺い、個別相談をさせて頂き多くの不安を解消することができました。これは妻にも共有すべきだと思い、今年は夫婦で参加させて頂きました。
上京させているため大学が遠い存在に感じていましたが、こうして大学の方が仙台まで来てくださり、とても身近にあると感じることができました。３年生なので就職活動が気になります。子どもの意思を尊重し温かく見守るつもりですが、就活スケジュール、履修登録のことまで色々とアドバイスを頂き、大変参考になりました。来年も是非参加したいと思います。ありがとうございました。

6月21日(日)◆名古屋会場
文学部
国文学科１年の父母



はがきが届いて参加することを決めました。
しっかりと説明してくれ、不安も解消され安心しました。
聞きたいと思っていたことを説明で言ってもらえたのでよかったです。
これからどんな風に学生生活が進んでいくのか、進めていけばいいのかも知ることが出来ました。
学校になかなか行くことが出来ないので学生生活のことやいろんな方向からの話を聞くことができよかったです。
就職の事も大学の実際の状況や様子、具体的なことを聞くことが出来ました。
こういう場を設けてもらってよかったです。

6月21日(日)◆金沢会場
GMS学部
GM学科４年の父母



教育懇談会が毎年開催されていることに感謝しております。2年次に初めて参加し、今回は４年次で最後の機会と思い参加しました。この４年間で、娘が東京での一人暮らしを通じて大きく成長した姿を見ることができました。「まだ卒業したくない」と話すほど充実した学生生活を送れたのは、大学や教育後援会による様々な支援のおかげだと思います。特に100円朝食や食育支援は大変助かったようです。また、ミニ講義では身近なところに曹洞宗とのつながりが多いことを知り、興味深く拝聴しました。保護者として永平寺での参禅研修にはまだ参加できていないため、今年はぜひ都合を合わせて参加したいと思います。

6月27日(土)◆札幌会場
文学部歴史学科２年の父母
文学部歴史学科１年の母
文学部英米文学科２年の母
文学部英米文学科１年の母



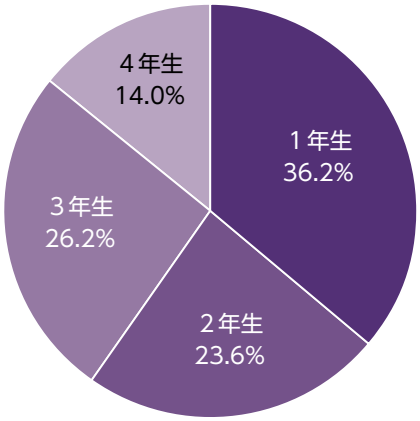
昨年は東京会場に参加しましたが、今年は北海道でも開催ということで、道内の保護者と交流できることを楽しみに参加しました。初対面にもかかわらず、同じ駒澤大学に子どもを通わせる保護者同士という共通点から自然と会話が弾み、大学生活や子供が生活する地域の情報、子どもとの接し方など、さまざまな情報交換ができました。大学や教育後援会の説明も分かりやすく、駒澤大学で本当に良かったと実感しました。帰りには連絡先を交換し、駒澤キャンパスでの再会を約束するなど、大変有意義な一日となりました。来年も北海道での開催を期待しています。

令和8年度　教育懇談会

参加者アンケート結果

教育懇談会にご参加された方々より、ご回答いただいたアンケートの集計結果は次のとおりです。
ご協力いただき、ありがとうございました。

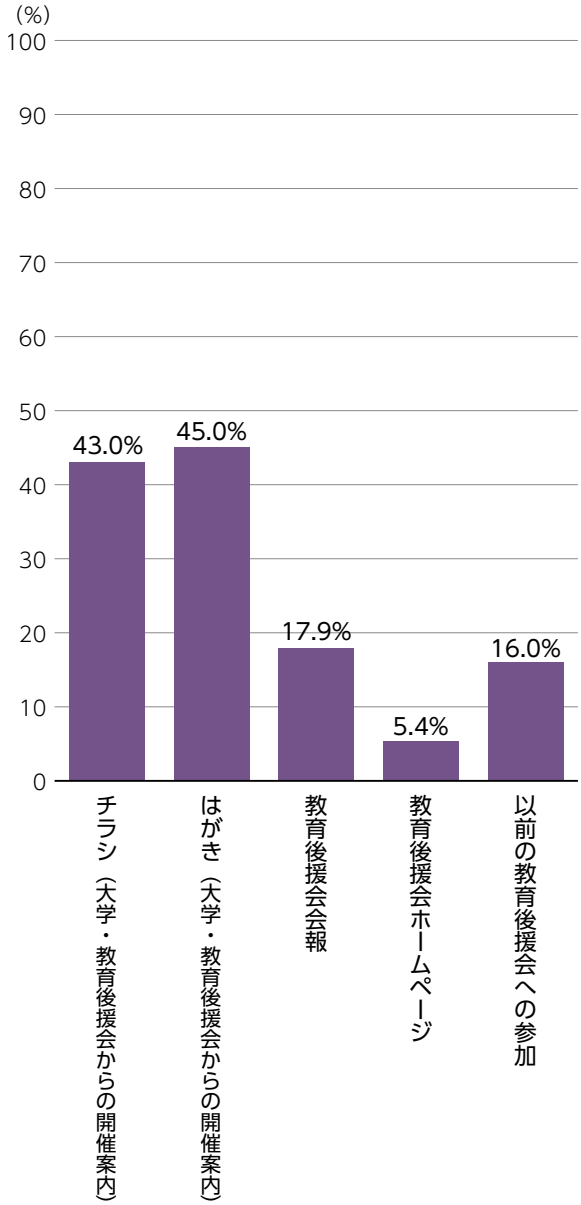
Q1 ご子女の学年を教えてください



今年度は 1 年生のご父母の方の参加が 36.2%と、最も多い結果になりました。学部・学年を超えた方々と情報交換ができますので、次年度以降も多くのご父母の方のご参加をお待ちしております。

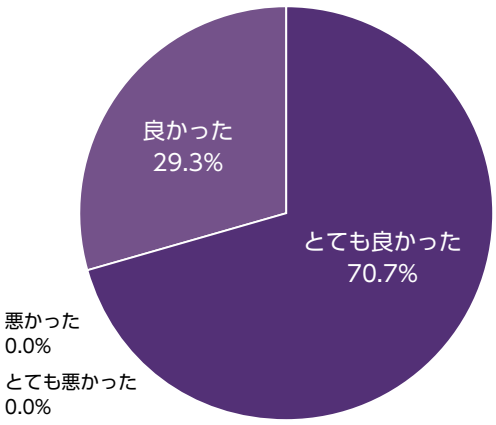
Q2 教育懇談会への参加を決めたきっかけを教えてください

【複数選択可】



教育懇談会への参加を決めたきっかけとして、「はがき（大学・教育後援会からの開催案内）」が 45.0%と最も多く、続いて「チラシ（大学・教育後援会からの開催案内）」が 43.0%、「以前の教育後援会への参加」が 16.0%という結果になりました。今後もご案内をお届けいたします。また、リピーターの方も多くおられ、毎年参加してもご満足いただけるようなイベントにしていきたいと思います。

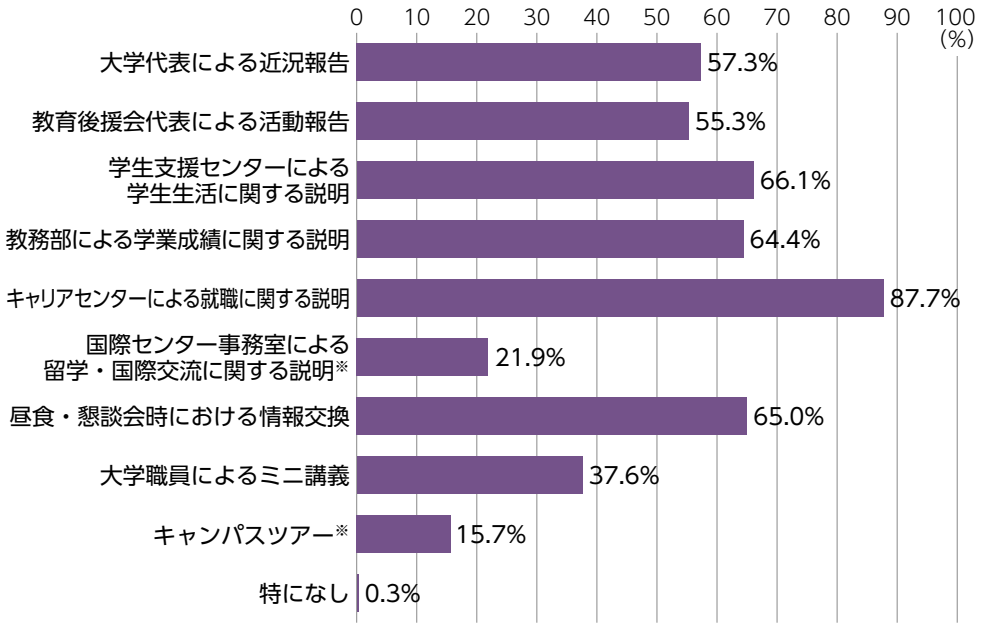
Q3 教育懇談会に参加されていかがでしたか



アンケート結果では、昨年度に引き続き「悪かった」「とても悪かった」という回答は 0.0%でした。皆さまにおおむねご満足いただけたものと考えております。遠方にお住まいのご父母の方々にも安心していただけるよう、大学の近況報告や学生の様子の発信に努めてまいります。

Q4 教育懇談会のプログラムで何が参考になりましたか

【複数選択可】

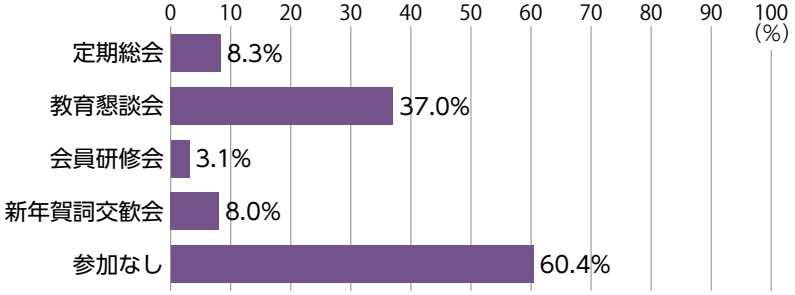


最も多く回答されたのは「キャリアセンターによる就職に関する説明」で87.7%でした。続いて「学生支援センターによる学生生活に関する説明」が66.1%、「昼食・懇談会時における情報交換」が65.0%でした。昨年度より就職や学生生活へのご関心が高まっております。説明を聞くことで普段漠然と不安に思っている事柄が解消されたり、ご父母の皆さまや教職員とお食事を共にしながら情報交換ができたりするなど、有意義な時間を過ごされたことをとてもうれしく思います。

※は東京会場のみの開催

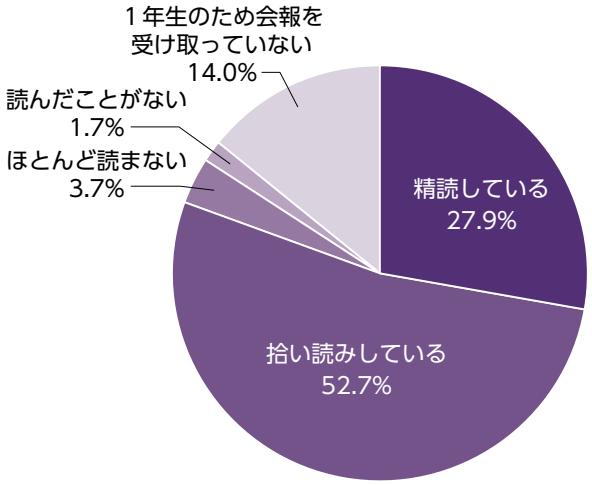
Q5 以前に教育後援会の活動に参加されたことはありますか

【複数選択可】



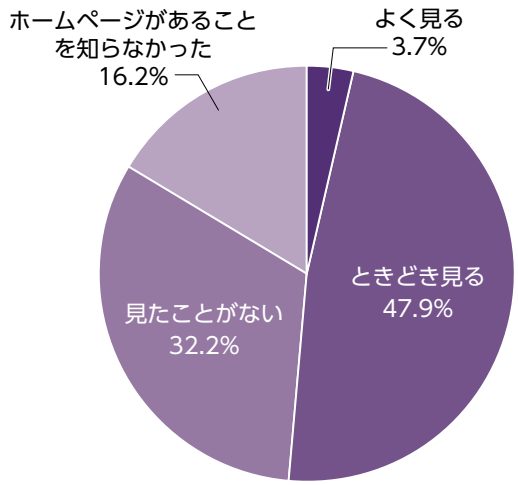
「参加なし」と回答した方の割合は60.4%であり、昨年度よりも参加経験のある方が増えています。教育後援会では、教育懇談会のほかにも会員研修会、新年賀詞交歓会等、ご父母の方々が参加できるイベントを開催しておりますので、ぜひご参加ください。

Q6 教育後援会会報を読まれていますか



「精読している」が27.9%、「拾い読みしている」が52.7%となり、多くの方が会報をご覧になっていることがわかりました。会報ではサークル活動や学部・学科紹介、在学生や卒業生のコメントも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

Q7 教育後援会ホームページをご覧になっていますか



ホームページを「見たことがない」と回答した方が32.2%、「ホームページがあることを知らなかった」と回答した方が16.2%という結果でした。「ときどき見る」と回答した方は47.9%となっております。イベントへのご参加の際、教育後援会ホームページからお申込みをお願いしておりますので、今後もぜひチェックしてみてください。

https://www.komazawa-k.org/

※円グラフの構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはなりません。
※アンケートの自由記述欄に記入されたご意見は、誌面の都合上、割愛させていただきますが、今後の活動の参考にさせていただきたいと思います。

特集7

夏季委員研修会に参加して

駒澤大学教育後援会では、ご子女の学ぶ大学への理解を深めるため、
毎年「夏季委員研修会」を開催しています。
この研修会に参加された方からご感想をお寄せいただきました。



応援指導中の写真



駒澤大学教育後援会
厚生部副部長
川村 宗之

大学を知り、委員活動の価値を再確認した1日

7月18日(土)開催の今年の夏季委員研修会（会場：駒澤大学駒沢キャンパス）は、準備にも携わらせていただいたせいか、より意義のあるものになったのではないかと感じています。学長・村松哲文先生の講義や参禅部にご指導いただいた坐禅体験を通じて、駒澤らしさを体験・理解する機会となりましたし、應援指導部ブルーペガサスの応援指導ではこれからのサークル応援に、より主体的に参加できるようになる学びがありました。午前10時30分開始、午後3時終了の長めのプログラムでしたが、終わってみるとあっという間でした（多分に、運営側の感覚が含まれているかもしれませんが）。

1. 学長・村松哲文先生による講義（およそ1時間）

NHK・Eテレなどへの出演でも知られる先生の講義は、テンポ良く、まったく興味のなかった仏像鑑賞学の世界に引き込まれるものでした。子供が駒澤大学にお世話になっている身でありながら、仏教や、仏像には無縁の生活であり、お釈迦さまも菩薩さまもそれが何を意味するのかも意識せず、ただ目の前の仏像に手を合わせるだけの関わりでしたが、その表情や衣装などから仏像の由来や歴史を想像できることを知り、教育後援会の委員であるというだけで、こんな得をして良いのかと思うほどでした（興味のある方へは、先生の著書「駒澤大学仏教学部教授が語る 仏像鑑賞入門（集英社新書）」をお薦めいたします）。内容もさることながら、これだけ聴衆のことを配慮した講義を受けられる学生はうらやましい、今一度自分の子供と、駒澤で学ぶことの価値を話してみたいとの感想も持ちました。多くの委員から質問も出ていましたし、続編を望む声も聴かれましたので、皆さん、満足度の高い時間だったのではないかと思います。

2. 学食体験

講義のあとは、教育後援会もサポートしている学生食堂・Kitchen駒膳にて昼食です。土曜日ですが、学食を利用している学生の姿もあり、リアルなキャンパスライフを垣間見ることができます。昔ながらの学食が提供する定食メニューだけでなく、一般のチェーンの飲食店が運営する店舗も併設され



村松学長の講義後の集合写真



坐禅体験後の集合写真

ており、好みに応じて利用しやすい学食との印象を持ちました。委員の私たちも、このランチを一つの交流の場として活用していますが、子供たちにもコミュニケーションの場として重要な機能があるのだろうとも思います。

3．坐禅体験（およそ1時間15分）

坐禅も駒澤ならではのプログラムです。サポートしてくださった参禅部の皆さんは、日常的に坐禅に取り組んでいるとのことでしたが、多くの委員にとっては非日常です。講師役の先生からは各所作の意義を含め丁寧にご指導いただきました。学生に大変人気の高い講座で、坐禅を組むときには何も考えずただ坐禅に集中するのですが、各所作に意義を感じるとのことでした。委員の私たちにとってもデジタルデトックスの意味でも貴重な経験だったと思います。

4．應援指導部による研修（およそ1時間）

教育後援会の活動の一つに、サークル応援があります。陸上競技部、相撲部、ボクシング部など、その時々対象を決めて応援活動を実施しています。特に野球部の応援では、應援指導部ブルーペガサスの皆さんと一緒に応援をすることになります。駒澤大学は複数の応援パターンを持っていますが、教育後援会も一緒になってそれらに合わせて声を出せるようにしようというのが今回の目的でした。私たちの子供たちが、「皆さんご一緒に」と堂々と声を張り上げている姿には、「指導」以上に、成長した姿を見ることができたようで駒澤を知ると同時に、親として満足感のある時間になりました。

委員として親として充実した1日でした。

以上、プログラムを通じて、今の駒澤大学を知る良い機会になりました（私は企画運営側なので、手前味噌な感覚はありますが）。委員としては、駒澤の学生、そして大学のポテンシャルを認知する機会にもなり、活動の新たな視点を得ることができました。また、プログラムのあとに催された懇親会では、同じ大学に通う子供を持つ親同士としての情報交換もできました。入学したころに言っていた、あの志はどうなったのやら。今さら大学生の子供を問い詰める気はありませんが、どうやら他の学生はこんなことをしているらしい、くらいの会話はしても良いのかな、と親と子の会話の糸口を見つけることもできました。

最後になりますが、本レポートが委員はもとより、会員の皆様が委員会活動に興味を持ってくださる機会になれば幸いです。

試験および成績評価について

●成績評価

本学では、約5500の授業が開講されていますが、授業の内容や形式は、科目の特性や担当教員の実施方法に応じて異なっています。そのため、成績評価の方法も、授業科目の特性または担当教員の考えによって異なります。

各教員が授業形態に応じた方法によって、成績評価を行っています。成績評価の方法については、「シラバス（KONECOで閲覧可能）」に明記されています。

●試験の種類（定期試験・追試験・授業内試験）

1. 定期試験

1月12日(火)から25日(月)は、後期および通年科目の試験期間であり、原則として平常の授業と同じ曜日・時限で行います。ただし、1月12日(火)から14日(木)、および18日(月)は、平常の授業と異なる曜日・時限で行うことがあるので、必ず日程の確認をしてください。試験形態は、筆記試験のみとなります。

最新の情報は大学ホームページや「KONECO」で確認してください。

2. 追試験

定期試験をやむを得ない理由で受験できなかった場合、所定の手続きを行い受ける試験です。「追試験受験願」を提出する際には、受験できなかった理由を証明する書類（診断書・証明書など）を添付しなければなりません。

3. 授業内試験

平常の授業時間内に担当教員が任意に行う試験（レポート提出を含む）です。年間を通じて行われるものですが、特に学年末の12・1月に行われる授業内試験は、定期試験の代わりとして実施される場合があります。

●成績発表および成績調査

学生への後期および通年科目の成績発表は、2月17日(水)にWebの「KONECO」にて行います。

また、成績に関して疑問がある場合は、2月17日(水)から2月19日(金)正午までにKONECO上で調査の申請を行ってください。この期間以外での申し出については、いかなる理由でも一切対応できません。

なお、3月中旬に保証人宛てに「学業成績表」を送付いたします（学生本人へは送付いたしません）。保証人住所を変更した場合は、必ず教務部へ届け出るよう学生本人へお伝えください。

成績表の見方については、次号の『会報』に掲載する予定です。

後期試験などに関する主な日程

後期授業最終日	1月9日(土)
後期・通年科目 定期試験	1月12日(火)～14日(木)・ 18日(月)～22日(金)・ 25日(月)
「追試験受験願」 受付締切	1月26日(火)正午
追試験	1月28日(木)～30日(土)・ 2月1日(月)・2日(火)・ 10日(水)
成績発表 (KONECOにて)	2月17日(水)
成績調査申請 (KONECO)受付締切	2月19日(金)正午
成績表発送 (保証人住所へ送付)	3月中旬

Instagram

駒澤の今日 更新中

学生支援センターの担当者が見つけた学内情報を学生向けに発信。
その日、大学でどんなイベントが行われているのか、のぞいてみてください。





こちらから
ご覧いただけます！

奨学金について

●日本学生支援機構（ＪＡＳＳＯ）奨学生の皆様へ

【返還手続き（貸与型、卒業年次生のみ）】

奨学金返還についての関連書類を、学生本人に手渡し済みもしくは保証人様に郵送済みですので、内容をご確認ください。

【次年度継続願（貸与型）】

例年12月中旬～1月上旬に、次年度奨学金の「継続願」Ｗｅｂ手続きを行っています。卒業年次生を除き、スカラネット・パーソナルにて継続願をＷｅｂ入力してください。

詳細は12月中旬にＫＯＮＥＣＯにてお知らせします。

※給付型奨学金の「継続願」Ｗｅｂ手続きは不要です。



スカラネット・パーソナル　ログイン画面

【学業成績の適格認定（給付型・貸与型）】

ＪＡＳＳＯ奨学金では、国の基準に従って、これまでの学業成績や学修意欲をチェックする「適格認定」が毎年度末に行われます。

特に給付型奨学生（多子世帯を含む）へは「継続・警告・停止・廃止・遡及取消」のいずれかの判定結果を3月下旬にＫＯＮＥＣＯ等でお知らせしますので、必ず確認してください。

●自然災害被災学生支援給付金について

被災された皆様へ

昨今、全国各地で自然災害が多発しており、被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。

ご家族の皆様のご安全と、一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

大学では、災害救助法が適用された地域にご実家がある学生さんに対し、メール等で状況確認の連絡を行っています。

駒澤大学には**「自然災害被災学生支援給付金」**という独自の支援制度があります。

学生の家計支持者の家屋が損壊した際などに、給付金を支給する支援です。

申請には罹災証明書等が必要になります。該当される方は要件等をご確認のうえ、担当窓口までご連絡ください。

そのほか、ご状況に応じて日本学生支援機構（ＪＡＳＳＯ）の以下の制度が申請できる場合があります。

◆**ＪＡＳＳＯ給付型奨学金・貸与型奨学金の応急採用**

◆**ＪＡＳＳＯ災害支援金**

ご希望の方やご不明な点がございましたら、担当までお問い合わせください。

お問い合わせ先

学生支援センター厚生課
日本学生支援機構（ＪＡＳＳＯ）担当窓口
ＴＥＬ　03-3418-9557
scholarship@komazawa-u.ac.jp

卒業アルバムについて

●駒澤大学　卒業アルバム2027年　データ投稿のお知らせ

卒業アルバムに掲載された一枚一枚の写真には、一人ひとりの大学時代の思い出が込められています。卒業してから10年、20年と時間がたち、ふと手に取って見返したときに、卒業生にもご家族にも楽しんでいただけるようなアルバムを制作中です。

ご子女が個人写真の撮影・データ投稿をされていない場合、アルバムの個人写真ページに掲載されませんので、くれぐれもご注意ください。ご子女にお知らせいただき、まだ撮影がお済みでない場合は、学内撮影会は終了しましたが、データ投稿も可能です。

左記サイトをご確認ください。

データ投稿方法

◆**個人写真**

◆**ゼミ・サークル・友人など集合写真**

【投稿締切】　3月25日（木）

※データ投稿は無料、服装は自由です。

アルバムの購入を迷っている方も、ぜひご参加ください。

卒業アルバムサイト
（委託企業サイト）

●卒業アルバムの購入方法のご案内

卒業アルバムのご購入につきましては、すでに郵送させていただきましたダイレクトメールをご確認いただき、卒業アルバムサイト（コンビニ決済・クレジット決済、パスワードは「6742」）または郵便局振込用紙のいずれかの方法でお申し込みください。なお、お申し込み時に指定されたご住所に卒業アルバムを郵送させていただきます。

【代金】　9500円（税・送料込み）

【納期】　2027年6月末発送予定

卒業後の発送となります。

到着まで数日かかる場合があります。

駒澤大学カラダスマイルプログラム

駒澤大学では学生自らが健康について考える機会を設けることを目的とし、2023年度より「駒澤大学カラダスマイルプログラム」を開始しました。2026年度は6月～7月にかけ、以下のプログラムに取り組みました。

学生食堂にて開催している「100円朝食」とともに実施した「朝だけ10円サラダ」「ランチ50円サラダバー」は、学生の事後アンケートにおいて「大変助かった」「もっと開催してほしい」などの回答や要望が多数あり、物価高騰の折から直接支援が求められていたことが分かりました。

夏季休暇直前に開催した「食支援プロジェクト第9弾」は、企業等からの協賛・協力並びに食品無償提供、卒業生や匿名の有志の方からの現物寄付の他、教育後援会からの多大な支援を受け開催しました。参加した学生からは感謝の言葉が多数寄せられました。

企画一覧

1. 保健室で学ぶ熱中症予防……【82人】
2. 栄養管理講習会(勝ち飯®)……【51人】
3. 無料歯科健診……【217人】
4. アルコールパッチテスト……【180人】
5. 禁煙・卒煙セミナー……【7人】
6. 野菜を食べよう！ランチ50円サラダバー……【699食】
7. 野菜を食べよう！朝だけ10円サラダ……【675食】
8. 食支援プロジェクト9……【3,815人】
9. 世田谷保健所による健康相談／野菜摂取量センサーによる判定
   【6月1,091件・7月1,528件
   うち食支援プロジェクト会場内健康相談時測定数　456件】
10. 図書館企画展示「ココロもからだもごきげんに ～毎日をちょっと豊かにする本のヒント～」














ご注意!!












7月15日(水)~17日(金)
11時~15時
食支プロジェクト9





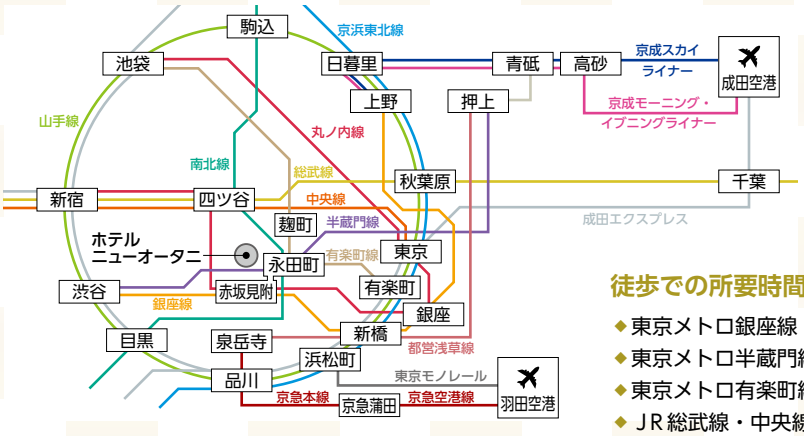
新年賀詞交歓会のお知らせ

新年を迎え、教育後援会が主催する新春交流の集いである新年賀詞交歓会を開催いたします。この会は、普段なかなか接点のないご父母の皆さま同士はもちろん、大学の教職員や関係者とも気軽に交流できる貴重な機会です。
後援会会長や大学来賓の挨拶に加え、楽しい抽選会や学生団体によるパフォーマンス、大学グッズ販売もあり、和やかな雰囲気でどなたでもお楽しみいただけます。
ご子女のキャンパスライフを支えるための新しい情報や心強い仲間を見つける絶好のチャンスです。ぜひお気軽にご参加ください！

日　時　**令和９年１月30日(土)**
午後１時30分開会（午後１時10分開場）

場　所　**ホテルニューオータニ**　ザ・メイン宴会場階「芙蓉の間」
東京都千代田区紀尾井町４-１

会　費　**お一人様　7,000円**



徒歩での所要時間等

- 東京メトロ銀座線・丸ノ内線　…赤坂見附駅　D紀尾井町口　３分
- 東京メトロ半蔵門線・南北線　…永田町駅　７番口　３分
- 東京メトロ有楽町線　…麹町駅　２番口　６分
- ＪＲ総武線・中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線　…四ツ谷駅　麹町口・赤坂口　８分











写真は令和８年の模様

申込方法

※本行事は、本学登録の保証人、ご父母を対象としております。対象でないご親族（祖父母、ご兄弟姉妹、親戚等）のご参加はできません。

Web申込　駒澤大学教育後援会ホームページにあります新年賀詞交歓会「マイページ登録・イベント参加申込」からお申し込みください。

※お申し込みが定員を超えた場合は抽選となります。重複してお申し込みいただいた場合は抽選対象外となりますので、ご注意ください。

※電話やハガキなど、Web 以外での申し込み受付はいたしませんので、ご注意ください。

申込先　「新年賀詞交歓会」ページ
https://www.komazawa-k.org/activity/ny_greeting/



申込締切日　**2026 年 12 月 8 日(火)** ◀期日までにお申し込みください

※結果については **rpsend.aeos-u.com** のアドレスからメールを送信しますので、あらかじめメールが受信できるように（迷惑メール対策のご確認等）設定をお願いいたします。

【重要】Gmail をご利用の会員様へ、メール不着に関するお願い

現在、Gmail（@gmail.com）をご利用の場合、セキュリティ強化により当会からの登録案内メールが「迷惑メールフォルダ」や「プロモーション」タブに誤って仕分けされる、または不着となる事象が頻発しております。数分待っても受信トレイにメールが届かない場合は、以下の手順をご確認ください。

1．迷惑メールフォルダの確認
「迷惑メール」フォルダを開き、当会からのメール（件名：【駒澤大学教育後援会】）がないかご確認ください。見つかった場合は、メールを開き「迷惑メールではないことを報告」ボタンを押してください。

2．受信許可設定 (連絡先登録) のお願い
今後、重要なお知らせを確実にお届けするため、当会の送信元アドレス（「@rpsend.aeos-u.com」「k-koen@komazawa-u.ac.jp」）を Google の「連絡先」に追加、または受信フィルターの設定をお願いいたします。

※メールアドレスの登録はお間違いのないようにお願いいたします。申し込み完了直後に自動返信メールが届きますので、ご確認ください。

※当落をお知らせするメールが 12 月 15 日 (火) までに届かない場合は、ご登録いただいたメールアドレスに誤りがあるか、メールの受信設定に変更が必要な可能性がありますので、ご確認ください。

お問い合わせ　**駒澤大学教育後援会事務局**（駒澤大学学生支援センター厚生課内）
TEL 03-3418-9060

事務取扱　平日 10：00 ～ 17：00　※ 12 月 25 日から 1 月 4 日を除く。

◆場所：ホテルニューオータニ　　会費：お一人様 7,000 円
◆会費のお支払い方法、プログラムの詳細はお申し込みされた方へ 1 月上旬までにお知らせいたします。







INFORMATION

令和８年度 学位記授与式（卒業式）について

日程　令和９年３月23日（火）・24日（水）

場所　**記念講堂**（駒澤大学駒沢キャンパス内）

●卒業生・修了生の所属学部・研究科により実施日が指定されますので、詳細については、大学ホームページをご確認ください。

駒澤大学ホームページ
https://www.komazawa-u.ac.jp/

「父母寄稿欄」への投稿をお待ちしております

原稿用紙１枚程度（400字程度まで）

●ふるさとだより、学生に関すること、会報に対するご意見などお寄せください。

※メールの件名に「父母寄稿」と入力、原稿にはタイトル・氏名・お子様の学部学科学年等をお書き添えください。顔写真や掲載希望の写真などもございましたら併せてお送りください。
※掲載の際にはお名前はイニシャル表記にいたします。
※原稿はお返しいたしませんのであらかじめご了承ください。

送り先　k-koen@komazawa-u.ac.jp

令和14年、開校150周年。これからの150年も、学生たちの夢を支え続ける大学であるために。

日頃より本学の教育活動ならびに募金事業にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

保証人の皆さまにお支えいただき、駒澤大学は、令和14（2032）年に開校150周年を迎えます。学生たちが安心して豊かなキャンパスライフを送り、社会へ羽ばたけるよう、「駒澤大学教育研究振興募金」の受付を行っております。

本募金は、皆さまのご関心に合わせて支援項目をご指定いただけます。教育研究やキャリア・就職支援、食支援など学生の生活を直接支える取り組みや奨学金の充実に加え、国際交流プログラム推進、図書館や禅文化歴史博物館の支援まで、想いに沿った事業をお選びいただけます。

ご寄付いただいた方には感謝を込めて本学ホームページ上のWeb芳名録にお名前を掲載しております（非公表のご指定も可能です）。

また、Web上でお手続きいただいた場合には、学生への応援メッセージをお寄せいただくことも可能です。

保証人の皆さまからのご支援が、学生たちの学びの環境をさらに充実させ、大学の未来へとつながります。引き続きのご協力を心よりお願い申し上げます。



駒澤大学教育研究振興募金　支援項目（使途）

❶教育研究の充実、キャリア・就職支援（大学に一任）❷学生生活支援（食支援・生理用品支援等学生支援）❸奨学金資金 ❹大規模自然災害被災学生の経済的支援 ❺国際交流プログラムの推進 ❻図書資料の購入、保存 ❼禅文化歴史博物館の保護・継承、展示・教育活動の充実

募金の詳細はこちらよりご確認ください

担当　募金事務室
TEL　03-3418-9561

※本募金事業は税額控除等の対象となります。

編集後記

先日、初めて生の落語を聴きました。直接聴けるというのはいいですね。楽しかった！いつか寄席にも行ってみようかと。舞台や音楽はときどき行っていたのですが、一人で大勢を相手に話し続け笑わせる。見事ですね。新たな発見でした。

文化部にいると、会報１号ごとに取材の機会が３回ほどあります。学生や大学の方々と直接話ができる貴重な場です。毎回参加できる訳ではないのですが、せめて１回でも同行したいと思っています。数えたところ活動３年目で８回参加していました。今回はバレーボールサークルにおじゃまさせていただきました。今までご縁のなかったところ、興味はあっても機会がなかったところ、取材先への行き帰りさえ行ったことのない場所もあるので、これも新たな発見や出会いです。次号もどこに行けるかと楽しみにしています。子どもの大学生活もあと１年半。チャンスを逃さないで文化部の活動も頑張ります。　(Y.S)

先日、初心者でサークル入部した娘が自主練したいと言うので、私と長男と３人でグラウンドのある近所の公園へ行って練習に付き合ってきました。３人ともやったことのないスポーツだったので、やっているうちにほんの少しの上達が嬉しくなって夢中になり、気がつけばみんな汗だくに。子ども達は小学校から高校まで一つのスポーツをやっていたので、「できるようになる」ことの喜びが薄れていたんでしょうね。またやろうよと言うくらい楽しかったようです。

新しいことへの挑戦は「できないこと」への焦りや不安を伴いますが、乗り越えた時にそれを覆す程の喜びがあります。何事もやってみなくては始まりません。

実は私の後援会への参加もそんな気持ちからでした。文化部としての部活動・サークル取材、編集会議など、参加するだけで精一杯でしたが、少しでも自分が関わったこの196号の発行が今はとても嬉しいです。　(K.H)

アンケートに答えて

駒澤大学関連グッズを抽選で5名様プレゼント!

駒澤大学教育後援会『会報』第196号はいかがだったでしょうか。今後の誌面編集の参考にさせていただくため、下記アンケートにお答えください。回答されたシートは、郵送もしくはFAXで駒澤大学教育後援会事務局までお送りください。皆様の率直なご意見、ご要望をお待ちしています(1月15日必着)。

Q1. おもしろかった記事の番号をお書きください(複数回答可)。

1 表紙について
2 《巻頭挨拶》
永井 政之(学校法人駒澤大学 総長)
大石 將貴／岡崎 敏樹(駒澤大学教育後援会 副会長)
3 特集① 気になる！ 就職活動
4 特集② サークル紹介 バレーボール同好会／書道部
5 特集③ 国際センターだより
6 特集④ 「ぜんぱく」〜禅を通じて文化と歴史に触れる、スティーブ・ジョブズも実践した禅の文化〜
7 特集⑤ 学部・学科紹介 文学部 社会学科
8 特別企画 地方で活躍する駒大卒業生の皆さん
9 特集⑥ 令和8年度 教育懇談会を終えて
10 特集⑦ 夏季委員研修会に参加して
11 大学だより
12 教育後援会だより

回答欄

Q2. 学部の教育内容や学生生活の状況、紹介してほしい学部・学科、ゼミなど、特集で取り上げてほしいテーマをお書きください。

Q3. 駒澤大学教育後援会『会報』に関するご感想、またお気づきの点がございましたらお書きください。

プレゼントを希望される方は下記にご住所、ご氏名をご記入ください。ご協力まことにありがとうございました。

ご住所	〒
ご氏名	

ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送にのみ使用させていただきます。
お預かりした個人情報は駒澤大学教育後援会事務局が責任をもって管理します。

2次元コードでも回答できます

郵送送り先

〒154-8525
東京都世田谷区駒沢1-23-1
駒澤大学教育後援会事務局 宛

FAX送り先

FAX 03-3418-8491

お問い合わせ：TEL 03-3418-9060

キリトリセン

会報
駒澤大学教育後援会
Komazawa University Education Support Association
Newsletter
vol.196
2026

令和8年11月13日発行

駒澤大学教育後援会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢1-23-1
駒澤大学学生支援センター内
駒澤大学教育後援会事務局

TEL：03-3418-9060
FAX：03-3418-8491

お正月の名物
箱根駅伝

第103回 東京箱根間往復大学駅伝競走

応援についてのお願い



1区－小山翔也選手　©月刊陸上競技



10区－佐藤圭汰選手　©月刊陸上競技

例年1月2日と3日に開催している「箱根駅伝」について、2027年大会の箱根駅伝の主催者である関東学生陸上競技連盟HPに、**応援に関する注意事項等**が発表されますので、皆さまご確認ください。

禁止事項に違反した場合、大会出場の停止やシード権の剥奪などのペナルティが科せられる場合があります。
レース当日の応援につきましては、関東学生陸上競技連盟HPにて最新情報をご確認いただき、ルールを守ったうえで温かいご声援をいただけますようお願いいたします。

箱根駅伝公式サイト
https://www.hakone-ekiden.jp/

應援指導部 ブルーペガサス 第22回 天馬祭のご案内

4年生の引退となる公演。
第47代の集大成を
ぜひご覧ください。



体育会應援指導部ブルーペガサス 全部員でお届けする大迫力のステージ

日程 2026年12月13日(日)
(13時開場／14時開演)

場所 記念講堂

内容構成 リーダー・チアリーダー・ブラスバンドによる各パートステージ、合同ステージ

この1年間、総勢85人で全国各地へ応援を届けてまいりました！
第47代應援指導部ブルーペガサスによる、支えてくださったすべての方へお届けする舞台。笑いあり、涙あり、感動のラストステージをお楽しみください。

X(旧Twitter)：@BPkomazawa
Instagram：@komazawa_bp
https://bluepegasus-komazawa.wixsite.com/bpouen

PICK UP
禅

天目茶碗と天目台（駒澤大学禅文化歴史博物館　所蔵）

禅宗の伝来と喫茶の風習の広まりには深い結びつきがある。日本に臨済宗を伝えた栄西は、建久2(1191)年、中国(南宋）からの帰朝の際に、喫茶法や茶の栽培方法を日本へと持ち帰ったとされる。また、栄西の持ち帰った茶種は宇治にも移植され、今日でも銘茶の産地として知られる。また、室町時代に出た村田珠光は、茶に禅の精神を取り入れた「茶禅一味」を説き、この精神を受け継いだ千利休らによって「茶の湯」「侘び茶」として大成されていく。天目茶碗は、中国浙江省の天目山から将来したとされる茶碗で、黒い釉を指し、小さな高台と直線的に広がる胴部、スッポン口と呼ばれる口縁部を特徴とする。本資料は、口縁部に覆輪と呼ばれる金属環が嵌められ、天目台に据えられている。質素なつくりから、中国本土よりも日本で好まれたとされる器である。

天目茶碗(上)：高7cm/中国/年代不明　　天目台(下)：高7.4cm/中国/15世紀



ZEN, KOMAZAWA, 1592

駒澤大学教育後援会 会報

2026年11月13日発行　駒澤大学教育後援会　〒154-8525　東京都世田谷区駒沢1-23-1　駒澤大学学生支援センター内
駒澤大学教育後援会事務局　TEL 03-3418-9060　https://www.komazawa-k.org/